



大規模な移行を加速するための組織準備

# AWS 規範ガイドンス



# AWS 規範ガイド: 大規模な移行を加速するための組織準備

Copyright © 2024 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは、Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は、Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

# Table of Contents

序章 .....	1
概要 .....	2
評価 .....	2
準備 .....	3
移行 .....	4
評価フェーズ .....	5
移行準備状況評価 (MRA) .....	5
目的 .....	5
結果 .....	5
ハウツーガイド .....	5
準備フェーズ .....	6
詳細なビジネスケース .....	6
目的 .....	6
結果 .....	7
詳細なポートフォリオ発見 .....	7
目的 .....	7
結果 .....	8
AWS パートナーとツール .....	8
ハウツーガイド .....	8
アプリケーションの移行 .....	8
目的 .....	8
結果 .....	9
AWS パートナーとツール .....	9
移行ガバナンス .....	10
目的 .....	10
結果 .....	10
AWS パートナー .....	10
ハウツーガイド .....	11
ランディングゾーン .....	11
目的 .....	11
結果 .....	12
ハウツーガイド .....	12
関連リソース .....	12
セキュリティ、リスクとコンプライアンス .....	12

目的 .....	12
結果 .....	13
ハウツーガイド .....	13
オペレーション .....	13
目的 .....	13
結果 .....	14
AWS パートナーとツール .....	14
ハウツーガイド .....	14
人材：スキル、文化、変化、リーダーシップ .....	14
目的 .....	14
結果 .....	15
ハウツーガイド .....	16
移行フェーズ .....	17
移行ファクトリー .....	17
ハウツーガイド .....	18
次のステップ .....	19
ガイド .....	20
パターン .....	21
リソース .....	22
ドキュメント履歴 .....	23
用語集 .....	24
# .....	24
A .....	25
B .....	27
C .....	29
D .....	33
E .....	37
F .....	39
G .....	40
H .....	42
I .....	43
L .....	45
M .....	46
O .....	50
P .....	53
Q .....	56

---

R .....	56
S .....	59
T .....	63
U .....	64
V .....	65
W .....	65
Z .....	66
.....	lxviii

# 大規模な移行を加速するための組織準備

移行のスペシャリストである Amazon Web Services (AWS)

2022 年 6 月 ([ドキュメント履歴](#))

数百または数千のワークロードを移行するには、複数の分野やチームにわたる調整と実装が必要です。AWS は大規模な移行を「評価」「準備」「移行」の3つのフェーズで取り組みます。各フェーズは、前のフェーズに基づいています。この AWS 規範的ガイド戦略は、評価フェーズと準備フェーズを対象としています。これらのフェーズは、移行フェーズにおける大規模な移行を加速するための基盤となります。

この移行戦略には、以下の方法やベストプラクティスが含まれます。

- 人材とリソースを準備する
- アジャイルアプローチによるアプリケーション移行の自動化を確立
- これらのアセットの AWS クラウドへの移行

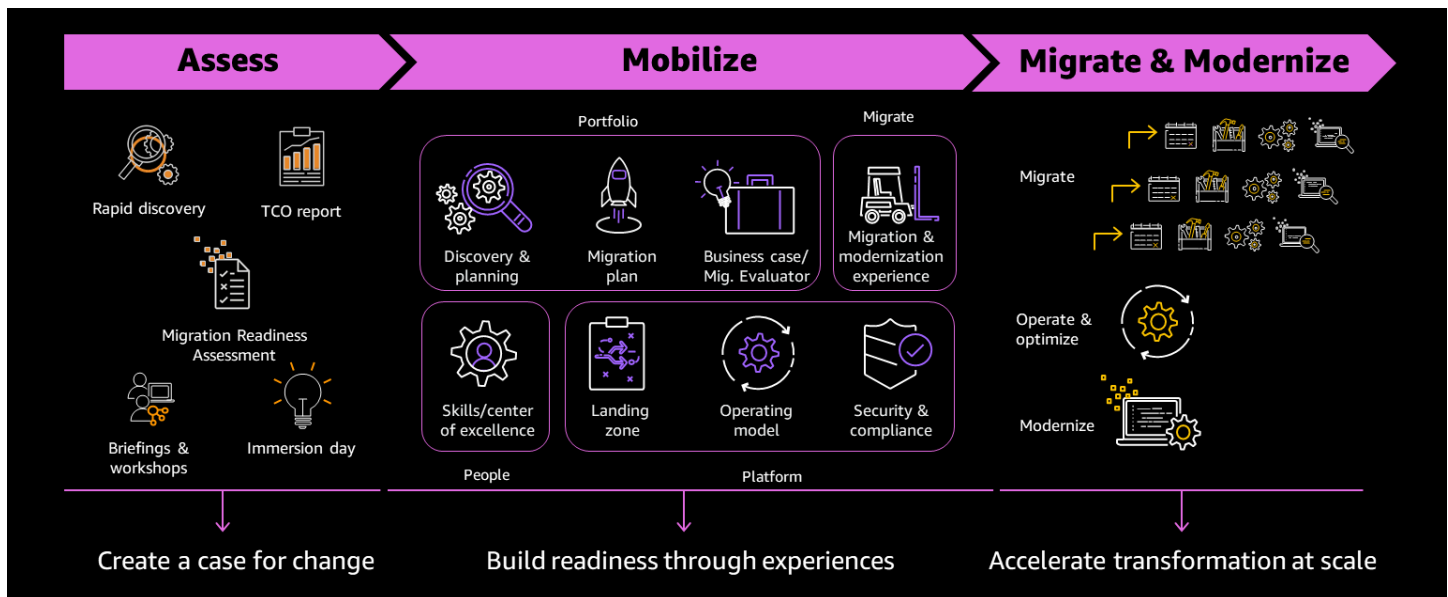
このアプローチは、AWS プロフェッショナル・サービス・チームが長年にわたって企業の AWS お客様のクラウド導入と移行を支援してきた経験に基づいています。

このガイドは、オンプレミスのワークロードを AWS クラウドに移行することを計画しているすべての人を対象としています。これには IT およびビジネスエグゼクティブ、プログラマージャー、プロジェクトマネージャー、製品所有者、オペレーションマネージャー、インフラストラクチャマネージャーなどが含まれます。クラウドの導入を加速し、移行計画を立て、実践的な経験を生かして基盤を構築し、最初のアプリケーションセットを数週間で AWS クラウドに移行する方法について説明しています。

## 概要

クラウドの導入と移行を最適化するには、まず自社の準備状況を評価し、診断する必要があります。組織の準備状況を評価したら、最初のアプリケーションをわずか数週間で移行するという実践的な経験を通じて、クラウドの導入を加速し、大規模な移行の基盤を確立できます。これらのフェーズについては、次のトピックで詳しく説明します。

このガイドで説明するクラウド導入への反復的アプローチは、評価、準備、移行という3つの大きなフェーズに分けることができます。これらのフェーズを次の図表に示しています。



## 評価

クラウド移行の最初の段階は、企業の現状を把握するクラウド準備評価から始まります。これらの評価タスクにより、移行対象を明確に把握できるだけでなく、移行のビジネスケースや移行の総保有コスト (TCO) 分析も得られます。

Migration Readiness Assessment (移行準備評価・MRA) は、次の項目を提供するプロセスです:

- 企業がクラウドジャーニーをどの程度進めているかを把握する
- クラウド準備完了企業に関する現在の強みと弱みの理解
- 特定されたギャップを埋めるためのアクションプラン

この評価は、AWS Cloud Adoption Framework (クラウド導入フレームワーク・ AWS CAF) と、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用の 6 つの観点に基づいています。評価段階でこのフレームワークを使用すると、クラウドへの効果的な移行をサポートするトランスフォーメーションイニシアチブの全体像を確実に把握できます。

評価フェーズには、MRA に加えて大まかな TCO 評価を伴う迅速な発見プロセスが含まれます。これらのステップは、ステークホルダーのコミットメントを得たり、その後続くより大きなイニシアチブのための資金を調達したりする際に役立ちます。

詳細については、「[評価フェーズ](#)」を参照してください。

## 準備

現状とポートフォリオをしっかりと理解し、評価フェーズで作成した確かなビジネス・ケースがあれば、組織にとってのクラウドの価値を実証することができます。

準備フェーズの目標は、セキュリティと運用の自動化に焦点を当てた実践的な移行経験を生かして、組織と AWS 環境の両方に基本的な能力を構築することです。このプロセスにより、ツールとプラクティスのポートフォリオがスケーラブルで安全な AWS ランディングゾーン にまとめられます。このフェーズでは、アジャイルでスケーラブルなデリバリー文化、チーム構造、変更管理プロセスを実施しながら、小規模なビジネスアプリケーションをクラウドに移行します。

AWS 準備のアプローチには、8 つのワークストリームにまたがる、定義された一連のアクティビティが含まれます：

- 詳細なビジネスケース
- ポートフォリオの詳細な発見
- アプリケーションの移行
- 移行ガバナンス
- AWS ランディングゾーン
- セキュリティ、リスクとコンプライアンス
- 操作
- 人材：スキル、文化、変化、リーダーシップ

このアプローチでは、これらのワークストリームのアクティビティは、8 つの 2 週間スプリントにわたって実施されます。



準備は次のような成果をもたらします：

- 方法論、プロセス、ツールを使って自信をつけることで、移行や組織の変革に関する IT スタッフのスキルと能力を向上します
- セキュリティ、リスク、コンプライアンスポリシーを定義して自動化し、運用管理に対応できるようにします
- 他のアプリケーションの移行に合わせてスケールすることができる AWS ランディングゾーンを定義して実装する
- クラウド運用モデルを確立する
- アプリケーションを本番稼働環境で実行する

準備フェーズにおける移行は、組織が新しいスキル、ツール、能力を開発するにつれて進化する反復的なプロセスです。これらのスキルと能力は勢いを増し、時間の経過とともに移行の取り組みを加速させます。適切な基盤を確立することが、移行を成功させる鍵となります。AWS 移行フレームワークは、クラウド移行を完了するために必要なビジネス面と技術面のバランスを取ります。このモデルは、移行の主要なビジネス推進要因と、クラウド移行を成功に導くための最適な戦略を特定するのに役立ちます。

詳細については、「[準備フェーズ](#)」を参照してください。

## 移行

移行フェーズでは、準備フェーズで定義およびテストされたパターン、プロセス、ツール、リソース、方法論を使用して、アプリケーションを大規模に移行します。以前のフェーズで学んだベストプラクティスと教訓を活用した後、自動化とアジャイルデリバリーを通じて、実装と運用のスケールアップのブループリントであるマイグレーションファクトリーを実装することができます。

詳細については、「[移行フェーズ](#)」を参照してください。

# 評価フェーズ

人員とリソースを準備して企業を大規模に移行するには、まず準備状況の評価し、ポートフォリオをインベントリする必要があります。これらのステップにより、適切な主要業績評価指標 (KPI) と指標を盛り込んだビジネスケースを構築し、主要な利害関係者と経営陣の足並みを揃えてビジネス目標に取り組むことができます。このフェーズでは、移行準備状況評価 (MRA) ワークストリームを実行します。

## 移行準備状況評価 (MRA)

MRA は、クラウド準備状況に関するインサイトを獲得し、AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF) を使用して特定されたギャップを埋めるためのアクションプランを構築する AWS プロセスです。

### 目的

- AWS CAF の 6 つの視点に基づいて質問に回答することで、企業の準備状況の評価することができます。

### 結果

- 企業がクラウドジャーニーのどの段階にいるかを把握する
- 分野の長所と短所を特定する
- 特定されたギャップを埋めるための計画

## ハウツーガイド

### [移行準備状況の評価](#)

# 準備フェーズ

企業を大規模に移行できるように人員とリソースを用意する次のステップは、準備活動をさまざまなワークストリームに分割することです。準備フェーズの目標はビジネスアプリケーションの移行ですが、このフェーズは、大規模な移行を加速させるツール、プロセス、文化の基盤を構築する機会にもなります。これらのワークストリームのほとんどは、評価フェーズが完了した後、並行して進めることができます。このフェーズでは、以下のワークストリームを実行する必要があります。

- [詳細なビジネスケース](#)
- [詳細なポートフォリオ発見](#)
- [アプリケーションの移行](#)
- [移行ガバナンス](#)
- [ランディングゾーン](#)
- [セキュリティ、リスク、コンプライアンス](#)
- [オペレーション](#)
- [人材：スキル、文化、変化、リーダーシップ](#)

これらについては、以降のセクションで説明します。

## 詳細なビジネスケース

現在のオンプレミスコスト、新しい AWS コスト、移行コストを含む詳細な複数年にわたるビジネス移行ケースは、利害関係者と経営幹部の足並みを揃えるのに役立ちます。

### 目的

- 移行コストを決定する
- に移行することで節約できる額を見積もる AWS
- 移行によるその他のビジネス上のメリットを見積もる
- ターゲットとなる移行期間を決定する
- どのワークロードをどの年に移行するかを決める
- 各ワークロードの詳細なインベントリを入力する

## 結果

- 複数年移行ビジネスケース
- 移行コスト

AWS RISC Networks、Deloitte、Cloudamize、Apptio などのパートナーは、この分野でツールと経験を持っています。

## 詳細なポートフォリオ発見

ここから各要素をまとめ、移行戦略を策定することから始めます。このフェーズでは、クラウドジャーニーが組織のより大きなビジネス戦略の中でどのような位置づけにあるかを検討し、ビジョンを一致させる機会を見つけたいと考えています。ビジネスケースと綿密なアプリケーション移行計画を裏付けとする、整合性のとれた移行戦略は、クラウド導入成功のための適切な土台を築きます。

移行戦略の重要な側面は、アプリケーションポートフォリオデータを収集し、そのデータを移行の 7 R (リホスト、リプラットフォーム、リファクタリング/リアーキテクト、再購入、再配置、廃止、保持) に対して合理化することです。7 つの R を使用して環境内の内容を分類し、移行のフェーズ的計画を立てます。次に、これらのカテゴリを、相互依存性、移行する技術的な複雑さ、各アプリケーションまたはアプリケーションセットの移行方法に関する情報と組み合わせます。7 つの R に従ってアプリケーションを分析したら、ポートフォリオ内の各アプリケーションの移行計画の概要を策定できます。これは反復的な計画であり、移行を進め、自信をつけ、新しい機能を学び、既存の資産をよりよく理解するにつれて成熟していきます。

## 目的

- 対象となるすべてのアプリケーションについて、アプリケーションおよび関連インフラストラクチャを含む移行グループの優先順位リストを作成する :
- 必要なビジネスとインフラのデータ要素を定義し、データ収集ツールを推奨する
- ビジネスチームおよび IT リーダーシップチームと協力し、移行促進要因、最終的にはポートフォリオ計画を定義する
- アプリケーションポートフォリオについて、以下のアクティビティを含む、忠実度の高い移行計画を作成する :
  - すべてのアプリケーションとそれをサポートするインフラを含む、現在の環境を発見する
  - アプリケーションとインフラストラクチャーの依存関係を判断する

- アプリケーションの重要性、ライフサイクル、ビジネスサイクルを文書化する
- アプリケーションとインフラストラクチャを移行グループとパターンにグループ化
- 移行の準備状況と適合性、目標の状態、設計、移行パターンを決定する
- 優先順位をつけた移行スケジュールを策定する

## 結果

- 最初の 4 つの移行スプリントのための、忠実度の高い、優先順位をつけた移行スケジュール
- アプリケーションポートフォリオ全体をグループ化してスケジュールするのに十分なアプリケーションとインフラストラクチャのデータ

## AWS パートナーとツール

IT ポートフォリオの理解にヘルプが必要な場合は、RISC Networks、Cloudamize、Deloitte などの AWS パートナーと連携し、[AWS Application Discovery Service](#) を使用できます。

## ハウツーガイド

- [AWS クラウド 移行のためのアプリケーションポートフォリオ評価ガイド](#)

## アプリケーションの移行

アプリケーション移行ワークストリームは、他のワークストリームからの出力を、本番稼働用アプリケーションの AWS クラウドへの移行と統合します。このワークストリームは、リソースをガイドし、アプリケーション移行の課題、ベストプラクティス、アジャイルフレームワーク、ツール、および大規模な移行作業に成功裏に適用できるプロセスについて説明します。

## 目的

ビジネスアプリケーションをオンプレミスから AWS クラウドに移行します。

- 移行するアプリケーションの選択と優先順位付けの方法を定義します。
- アプリケーションを に移行するための実証済みのベストプラクティスを理解する AWS
- でアプリケーションをテストしてラン AWS デイニングゾーン、オペレーションランブック、セキュリティプレイブックを検証する AWS

- 実践的な経験を通じて、AWS サービスとパートナーツールに関する社内スタッフをトレーニングする
- さまざまなアプリケーションタイプについて、業界で認められている移行ツールとテクニックを学ぶ
- さまざまな[移行パターン](#)の既存のエピック (バックログ) を使用して有利なスタートを切る

## 結果

- アプリケーションのデプロイとテストを通じて AWS ランディングゾーンのさまざまなコンポーネントを検証する
- AWS クラウドで実行されているアプリケーションをデプロイ、モニタリング、レポートして、概説された運用モデル (運用ワークストリームの出力) を検証する
- さまざまなアプリケーションを移行するための、スケーラブルなアジャイルプロセスと移行パターンを学ぶ
- ターゲットアーキテクチャの設計方法と、自動移行のためのデータ移行、サーバー移行、ベンダーツールの使用方法を学ぶ
- AWS サービスに関するリソースをトレーニングし、実践的な移行エクスペリエンスを提供する
- AWS で実行されているアプリケーションをリアルタイムで監査して、セキュリティ対策を検証する
- リソース数、速度 (移行速度)、品質保証、リリース管理、マネージドサービスプロバイダー (MSP) との統合など、移行デリバリープロセスを学習、実装、検証する

## AWS パートナーとツール

いくつかのアプリケーションを移行した基礎的な経験があり、組織がサポートする計画を立てたら、今こそ移行を加速し、規模を拡大する時です。2nd Watch やアクセンチュアのような Migration Delivery Partners (移行デリバリーパートナー) は、移行のあらゆる段階をサポートすることができます。RiverMeadow Software や Attunity などの Migration Marketplace パートナーもサポートし、や [AWS Database Migration Service \(AWS DMS\)](#) などの [AWS Application Migration Service](#) ツールやサービスを使用できます。すべてのマイグレーション・パートナーとソリューションの全リストは、「[AWS Migration Competency Partners \(移行コンピテンシーパートナー\)](#)」のウェブサイトを参照してください。

# 移行ガバナンス

移行ガバナンスのワークストリームには、移行範囲、スケジュール、リソース計画、問題とリスク、すべての利害関係者とのコミュニケーションの管理が含まれます。複数のアプリケーションが複数のストリームに分かれて移行され、複数のチームに影響が及ぶため、早いフェーズで計画に集中することがプロジェクトの整理に役立ちます。移行計画では、ワークロードの移行順序、リソースが必要な時期、移行の進捗状況の追跡方法などの重要な要素を考慮します。アジャイルデリバリーの方法論、プロジェクト管理のベストプラクティス、強固なビジネスコミュニケーション計画、明確に定義されたデリバリーアプローチをお勧めします。

## 目的

スコープ、スケジュール、リソース計画、問題点、リスクを管理し、すべてのステークホルダーとの調整とコミュニケーションを行う：

- このフェーズで定義されたワークストリームの内部リソースで構成されるスクラムチームを設定する
- オンプレミスから移行するアプリケーションを 10～30 個特定する AWS
- 現在のプロジェクト管理手法と機能を見直す
- プロジェクト管理におけるアジャイル手法とプロジェクト中に使用するツールを定義する
- 各ワークストリームの上位チームを特定する
- プロジェクト憲章、報告、エスカレーション手順を定義する
- プロジェクト全体にわたるグループの調整と活動を促進する

## 結果

- 準備フェーズと計画フェーズのすべてのワークストリームを対象に、エピックを含むアジャイルプログラムを設定する
- 複雑なワークロードコンポーネントセットの発見、変換、展開のための検討と移行の実施計画を提供する

## AWS パートナー

AWS Migration Competency Partners は、人材、ツール、教育をプロフェッショナルサービスとして提供することで、移行のあらゆる段階を通じて成果を加速させることができます。これらのパート

ナーは、[マネージドサービスプロバイダー](#) (MSPsであるか、 が監査した MSP AWSと関係があり、お客様が AWS ワークロードを継続的にサポートできるよう支援します。AWS 移行コンピテンシーパートナーの詳細については、[AWS 「移行コンピテンシーパートナー」](#)を参照してください。

## ハウツーガイド

- [クラウド移行を加速するためのアジャイルプログラムの設定](#)

## ランディングゾーン

ランディングゾーンは、ワークロードとアプリケーションをデプロイするための出発点となる、適切に設計されたマルチアカウント AWS 環境です。マルチアカウントアーキテクチャ、アイデンティティとアクセス管理、ガバナンス、データセキュリティ、ネットワーク設計、ロギングを始めるためのベースラインを提供します。

AWS ランディングゾーンを作成するための 2 つのオプションがあります。[AWS Control Tower](#) を使用するサービスベースのランディングゾーンと、構築するカスタマイズされたランディングゾーンです。オプションごとに異なるレベルの AWS 知識が必要です。

AWS は、安全でスケーラブルなワークロードを実行できるようにランディングゾーンのセットアップを自動化することで、時間を節約するのに役立つ Control Tower を作成しました。Control Tower は、[AWS のベストプラクティスとガイドライン](#)を使用して、基盤環境の作成を支援します。Control Tower は、[AWS Service Catalog](#)や[AWS Organizations](#)のような統合サービスを使用して、ランディングゾーンのアカウントをプロビジョニングし、それらのアカウントへのアクセスを管理します。

## 目的

次のような初期設定のランディングゾーンを作る：

- アカウント構造
- ネットワーク構造
- 定義済みの ID と請求フレームワーク
- 事前定義済みのユーザー選択可能なパッケージ
- カスタマイズと構成が可能



## 結果

- 移行とさらなるカスタマイズの準備が整っている定義された安全なランディングゾーン

## ハウツーガイド

- [安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ](#)

## 関連リソース

- [AWS Control Tower](#)
- [AWS Service Catalog](#)
- [AWS 組織](#)
- [「ランディングゾーン全体のセキュリティとガバナンスの設計」](#)

## セキュリティ、リスクとコンプライアンス

セキュリティ、リスク、コンプライアンスのワークストリームは、の信頼性を構築するのに役立つ構造化されたアプローチを定義します AWS。また、基本的なセキュリティ、リスク、コンプライアンス機能を実現し、移行プロジェクトの準備と計画を加速させることができます。デリバリーアプローチは AWS CAF セキュリティの観点から構築されており、ビジネスワークロードをに移行する準備をしているセキュリティチームに、より詳細なガイダンスを提供します AWS。このワークストリームでは、仮想データセンターのコンセプトを活用して、最低限の基本となるセキュリティとコンプライアンス管理に取り組んでいます。仮想データセンターは、1つ以上のクラウドセキュリティデリバリーチームを使ったアジャイル開発プロセスによって構築されることを意図しています。

## 目的

セキュリティの観点では、以下の項目について推奨される初期構成が示されています。

- AWS Identity and Access Management (IAM) モデル
- ログ記録とモニタリングモデル
- インフラストラクチャセキュリティ
- データ保護
- インシデント応答

## 結果

関連するコード例でサポートされ、AWS サービスを利用するセキュリティおよび監査タスクに関する以下の5つの主要トピックを網羅した参照可能なプレイブックを作成します。

- ID およびアクセス管理
- 「発見的コントロール」
- インフラストラクチャセキュリティ
- データ保護
- インシデント応答

## ハウツーガイド

- [クラウドモビリゼーションのためのセキュリティ基盤の評価と構築](#)

## オペレーション

運用ワークストリームの目的は、現在の運用モデルを見直し、AWSへの移行時にフューチャー運用モデルをサポートする運用統合アプローチを開発することです。運用モデルには、組織目標の達成を支援するための人材、プロセス、ツール間の関係を網羅する必要があります。ワークストリームのオーナーは、ツール、プロセス、人材の最終フェーズの運用モデルに基づいて、大まかなギャップを特定して文書化します。次に、実装に向けたロードマップを作成し、優先順位を付けます。このロードマップは、セキュリティ、人材、AWS ランディングゾーン、その他のプロジェクトワークストリームの間に多くの相互依存関係があるため、他の移行ワークストリームの影響を受け、今後も影響を受けます。

## 目的

でスケーリングする運用構築のロードマップを作成します AWS。

- IT サービス管理 (ITSM) の望ましい状態とサポートモデルの特定
- オンプレミスとクラウドにおける現在の運用慣行 (ツール、人材、プロセス) を見直す
- スケーリング・オペレーションに関する潜在的な脆弱性を特定する
- 事業継続計画 (BCP) を見直し、事業への潜在的な影響に対処する計画を立てる
- 移行の実行が通常の運用にどのような影響を与えるかを特定する

- クラウド環境とやり取りする運用サポート組織と AWS パートナーを特定する

## 結果

- 運用体制の改善、サービスレベルアグリーメント (SLA)と運用レベル・アグリーメント (OLAs) の強化
- バックアップ、監視、導入などの運用サイロを解消するためのランブックと設計ガイド
- の運用プレイブック AWS
- 事業継続計画/災害復旧 (BCP/DR) プレイブック
- AWS 文書化および定義された の ITSM

## AWS パートナーとツール

アプリケーションが移行され、古いシステムが廃止されると、運用モデルは最新の運用モデルに常に反復する常設の人、プロセス、テクノロジーのセットになります。AppDynamics、New Relic、Dynatrace などの AWS パートナーは、より多くの運用をクラウドに移行するときに運用モデルを反復し続けるのに役立ちます。

## ハウツーガイド

- [AWS クラウドでのオペレーションのモダナイズ](#)

## 人材：スキル、文化、変化、リーダーシップ

このワークストリームは、移行の準備を整え、移行を大規模に実行するために不可欠です。クラウド移行の影響は組織全体に及び、組織文化に大きな影響を与えます。さらに、組織文化はクラウドへの移行にも影響します。こうした文化的な含意、変化に対する組織の受容性、過去の変更の成功と失敗、組織のコミュニケーションパターン、組織構造、既存の従業員トレーニングと支援戦略はすべて、移行を成功させるアプローチを構築する上で重要な要素です。エンタープライズ移行に備えるには、本番環境 AWS の経験があり、確立された運用プロセスを持つ重要な人材が必要です。また、適切なリソースを動員し、大規模な移行作業の過程で提示される多くの組織およびビジネス変革の課題を通じて組織をリードすることに専念する Cloud Center of Excellence (CCoE) も必要です。

## 目的

- 重要なクラウドリソースの準備を担当するチームをデザインする

- フューチャー運用状況に合わせてチームを設計することにより、組織がクラウド戦略を構築および実装する方法を定義する
- オーナーシップが一元化され、強力で目に見えるエンゲージメントの高いエグゼクティブスポンサーシップを備えた専任チームを構築する
- 移行プロセス全体を通して管理すべき機能分野を設定する
- クラウドガバナンスモデル、一連の標準、ベスト・プラクティス、指導原則の確立に着手する
- AWS OCM 6-Pointフレームワークと必須ツールキットを使用すると、クラウド導入ジャーニーをサポートするための包括的な有効化ツールキットが提供されます。

## 結果

- 変更管理リスク文書
- 高レベルの変化の影響を特定する (役割別、主要プロセス別)
- 主要利害関係者のマッピング
- コミュニケーション、メッセージ、戦略、プラットフォーム
- 初期コミュニケーションプランとメッセージングマトリックス
- 変更管理作業計画 (初期)
- アクセラレーション組織チャーター
- 人材採用 / アクセラレーション・チームの構成 (文書化され、オンボードされている)
- 組織の加速目標と目的の定義
- 将来の人員配置モデル (目標とする組織構成)
- リスクスコアカードの変更 (リスク管理)
- リーダーシップ調整文書
- ステークホルダーレポートの頻度 (ステークホルダー評価)
- 変更領域の影響分析、利害関係者に基づく評価、変更影響の所見と緩和策の提案
- 組織準備状況評価レポート
- 変更戦略
- コミュニケーション戦略
- エンゲージメント戦略
- トレーニング戦略
- リスク軽減戦略

- [変革を加速するスポンサーのロードマップ](#)

## ハウツーガイド

- [文化、変革、リーダーシップを通じてクラウド導入を加速する](#)

# 移行フェーズ

大規模な移行は、準備段階と計画段階で定義、テストされた構成要素、プロセス、ツール、リソース、方法論で構成されます。以前のフェーズで学んだベストプラクティスと教訓を活用した後、自動化とアジャイルデリバリーを通じて、実装と運用のスケールリングのブループリントであるマイグレーションファクトリーを実装することができます。

## 移行ファクトリー

移行プロジェクトのスケールアウトフェーズでは、複数のチームが同時に作業することになります。中には、リホストやマイナーリプラットフォームのパターンで大量の移行をサポートするチームもあります。これらのチームは移行ファクトリーと呼ばれます。移行ファクトリーは、複数のスプリントチームが並行して作業することで、移行計画のスピードを向上させます。企業アプリケーションポートフォリオの 20~50% は、ファクトリーアプローチによって最適化できるパターンの繰り返しで構成されています。これはアジャイルデリバリーモデルであり、リリース管理計画を作成することが重要です。計画は、準備段階と計画段階で生成された現在のワークロードと情報に基づいて作成する必要があります。将来の移行の波と将来の移行チームのために、継続的に最適化されるべきです。各チームに 3 つのスプリントをサポートするアプリケーションのバックログを持つことをお勧めします。これにより、スケジュールに影響する問題が発生した場合に、アプリケーションの優先順位を変更することができます。

大規模で複雑なアプリケーションでは、多くの場合、リファクタリング/リアーキテクトのパターンに従います。これらは通常、アプリケーションの所有者が計画したリリースサイクルで実施します。ファクトリーチームは自給自足で、5 ~ 6 つの部門横断的な役割を担っています。その中には、オペレーション、ビジネスアナリスト、オーナー、移行エンジニア、開発者、DevOps の専門家が含まれます。移行ファクトリーチームが特に力を入れている例を次に示します：

- リホスト移行チームは、重要な変更を必要としない、大量かつ複雑性の低いアプリケーションを移行します。これらのチームは移行自動化ツールを活用します。このアプローチはパッチとリリースの管理プロセスに組み込まれています。
- リプラットフォーム移行チームは、プラットフォームの変更やアプリケーションアーキテクチャの反復可能な変更を必要とするアプリケーションを設計して移行します。
- リファクタリング/リアーキテクト移行チームは、依存関係の多い複雑または中核となるビジネスアプリケーションを設計して移行します。ほとんどの場合、開発チームと技術運用チームがこのビジネス能力をサポートします。移行は、そのチームの計画におけるリリースサイクルまたは数回のリリースサイクルになります。これらが数多く飛び交う可能性があり、Cloud Business Office

(CBO) は、移行が完了するまでのタイミング、リスク、および問題を追跡する責任があります。このチームがアプリケーションの移行プロセスを担当します。

考慮が必要な項目:

- ポートフォリオ分析を実施して、すべてのアプリケーションに共通するパターンを把握することで、ファクトリーチームが効率的に実装できる反復可能な作業を構築できます。
- AWS パートナーを使って、チームが通常のビジネス活動をサポートする際のリソース制約を支援します。AWS および AWS パートナーコミュニティは、データベース、アプリケーション開発、移行ツールなどの特定のトピックに特化したリソースを提供できます。

## ハウツーガイド

- [クラウド移行ファクトリーによる大規模なサーバー移行の自動化](#)

## 次のステップ

この戦略文書では、AWS クラウドへの大規模な移行に必要な準備と実装の手順を紹介しました。現状を分析し、計画を立て、作業を反復することで、大規模な移行を管理しやすい活動に分割し、効率的に実施することができます。移行を組織の変革プロジェクトと見なすと、プロセスの各段階を通じて賛同を得て、コミュニケーションを維持することができます。ビジネスケースを構築し、プロジェクトの進行に合わせて投資収益率を改善します。AWS Cloud Adoption Framework (CAF) を使用して、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、および運用に関するさまざまな観点から環境を分析します。この分析により、大規模な移行作業を進める前に、どの領域を改善する必要があるかを完全に把握できます。移行ファクトリーを使用して移行パターンを構築し、反復することで、AWS クラウドへの最適な移行を実現できます。今日、AWS お客様は「なぜクラウドに移行するのか」という質問からシフトしています。「いつ?」という質問をしました。効果的な移行戦略と計画を立てれば、「今すぐ!」と答えることができます。

移行は可能なことの始まりに過ぎません。アプリケーションを移行した後は、移行の経験を、そのアプリケーションの最適化フェーズで使用できる機能と見なすことができます。現在のアーキテクチャと未来の設計を持つことになります。変更を実装、テスト、検証します。カットオーバーして本番稼働します。これで、組織と会社のスピード、俊敏性、ビジネス価値を高めることができる新しい IT 機能が手に入りました。



# ガイド

以下のガイドでは、クラウドへの大規模な移行を加速するための技術的側面と非技術的側面について詳しく説明しています。

- [移行準備状況の評価](#)
- [移行に向けたポートフォリオの発見と分析](#)
- [クラウド移行を加速するためのアジャイルプログラムの設定](#)
- [安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ](#)
- [クラウド準備のためのセキュリティ基盤の評価と構築](#)
- [クラウドでの運用の近代化](#)
- [文化、変革、リーダーシップによるクラウド導入の加速](#)

# パターン

AWS 規範的ガイドのパターンは、移行戦略の方法論を実装するためのツール、アーキテクチャ、段階的なガイドを提供します。また、クラウドネイティブプロジェクトやセキュリティプロジェクトなど、他のイニシアチブをサポートするパターンも見つかります。AWS 規範ガイドウェブサイトでは[すべてのパターンを確認したり](#)、フィルターオプションを使用したり、検索クエリを入力して関心のあるパターンを検索したりできます。

# リソース

- [Amazon Web Servicesで移行とモダナイズ](#)
- [移行先 AWS :ベストプラクティスと戦略](#)
- [AWS 評価ツール](#)
- [AWS Migration Portfolio Assessment \(MPA\)](#) (ログインが必要)
- [クラウド導入準備ツール・ CART](#)
- スティーブン・ オーバンが語るクラウド移行:
  - [クラウドへの大量移行を検討中ですか?](#) (ブログ記事)
  - [クラウドへの大量移行のプロセス](#) (ブログ記事)
  - [クラウドネイティブカリフトアンドシフトか?](#) (ブログ記事)
  - [アプリケーションをクラウドに移行するための6つの戦略](#) (ブログ記事)
  - [はい、メインフレームをクラウドに移行できます](#) (medium.com の記事)
- [クラウドへのリフトアンドシフトを再検討すべき4つの理由](#) (medium.com の Joe Chung による記事)
- [AWS Database Migration Serviceの入門ガイド](#) (2016年 AWS グローバル・ サミット・ シリーズ、シカゴでのプレゼンテーション)

## ドキュメント履歴

以下のテーブルは、このドキュメントの大きな変更点をまとめたものです。今後の更新に関する通知を受け取る場合は、[RSS フィード](#)をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
<a href="#">更新された内容</a>	<a href="#">セキュリティ、リスク、コンプライアンスのワークストリーム</a> の目標を更新しました。	2022 年 6 月 20 日
<a href="#">更新された内容</a>	<a href="#">モバイル化フェーズ</a> のトピックの内容を更新し、より明確にしました。	2020 年 2 月 24 日
<a href="#">初版発行</a>	—	2019 年 8 月 5 日

# AWS 規範的ガイドの用語集

以下は、AWS 規範的ガイドが提供する戦略、ガイド、パターンで一般的に使用される用語です。エントリを提案するには、用語集の最後のフィードバックの提供リンクを使用します。

## 数字

### 7 Rs

アプリケーションをクラウドに移行するための 7 つの一般的な移行戦略。これらの戦略は、ガートナーが 2011 年に特定した 5 Rs に基づいて構築され、以下で構成されています。

- リファクタリング/アーキテクチャの再設計 — クラウドネイティブ特徴を最大限に活用して、俊敏性、パフォーマンス、スケーラビリティを向上させ、アプリケーションを移動させ、アーキテクチャを変更します。これには、通常、オペレーティングシステムとデータベースの移植が含まれます。例: オンプレミスの Oracle データベースを Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションに移行します。
- リプラットフォーム (リフトアンドリシェイプ) – アプリケーションをクラウドに移行し、クラウド機能を活用するためある程度の最適化を導入します。例: オンプレミスの Oracle データベースをの Oracle 用 Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) に移行します AWS クラウド。
- 再購入 (ドロップアンドショップ) — 通常、従来のライセンスから SaaS モデルに移行して、別の製品に切り替えます。例: 顧客関係管理 (CRM) システムを Salesforce.com に移行します。
- リホスト (リフトアンドシフト) — クラウド機能を活用するための変更を加えずに、アプリケーションをクラウドに移行します。例: オンプレミスの Oracle データベースをの EC2 インスタンス上の Oracle に移行します AWS クラウド。
- 再配置 (ハイパーバイザーレベルのリフトアンドシフト) – 新しいハードウェアを購入したり、アプリケーションを書き換えたり、既存の運用を変更したりすることなく、インフラストラクチャをクラウドに移行できます。サーバーをオンプレミスプラットフォームから同じプラットフォームのクラウドサービスに移行します。例: の移行 Microsoft Hyper-V アプリケーション AWS。
- 保持 (再アクセス) — アプリケーションをお客様のソース環境で保持します。これには、主要なリファクタリングを必要とするアプリケーションや、お客様がその作業を後日まで延期したいアプリケーション、およびそれらに移行するためのビジネス上の正当性がないため、お客様が保持するレガシーアプリケーションなどがあります。
- 使用停止 — お客様のソース環境で不要になったアプリケーションを停止または削除します。

# A

## ABAC

[「属性ベースのアクセスコントロール」](#)を参照してください。

## 抽象化されたサービス

[「マネージドサービス」](#)を参照してください。

## ACID

[原子性、一貫性、分離性、耐久性](#)を参照してください。

## アクティブ - アクティブ移行

(双方向レプリケーションツールまたは二重書き込み操作を使用して) ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させ、移行中に両方のデータベースが接続アプリケーションからのトランザクションを処理するデータベース移行方法。この方法では、1 回限りのカットオーバーの必要がなく、管理された小規模なバッチで移行できます。アクティブ [パッシブ移行](#) よりも柔軟ですが、より多くの作業が必要です。

## アクティブ - パッシブ移行

ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させながら、データがターゲットデータベースにレプリケートされている間、接続しているアプリケーションからのトランザクションをソースデータベースのみで処理するデータベース移行の方法。移行中、ターゲットデータベースはトランザクションを受け付けません。

## 集計関数

行のグループに対して動作し、グループの単一の戻り値を計算する SQL 関数。集計関数の例には、SUMや MAXなどがあります。

## AI

[人工知能](#)を参照してください。

## AIOps

[「人工知能オペレーション」](#)を参照してください。

## 匿名化

データセット内の個人情報を完全に削除するプロセス。匿名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。匿名化されたデータは、もはや個人データとは見なされません。

## アンチパターン

繰り返し起こる問題に対して頻繁に用いられる解決策で、その解決策が逆効果であったり、効果がなかったり、代替案よりも効果が低かったりするもの。

### アプリケーションコントロール

マルウェアからシステムを保護するために、承認されたアプリケーションのみを使用できるようにするセキュリティアプローチ。

### アプリケーションポートフォリオ

アプリケーションの構築と維持にかかるコスト、およびそのビジネス価値を含む、組織が使用する各アプリケーションに関する詳細情報の集まり。この情報は、[ポートフォリオの検出と分析プロセス](#)の需要要素であり、移行、モダナイズ、最適化するアプリケーションを特定し、優先順位を付けるのに役立ちます。

### 人工知能 (AI)

コンピューティングテクノロジーを使用し、学習、問題の解決、パターンの認識など、通常は人間に関連づけられる認知機能の実行に特化したコンピュータサイエンスの分野。詳細については、「[人工知能 \(AI\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

### 人工知能オペレーション (AIOps )

機械学習技術を使用して運用上の問題を解決し、運用上のインシデントと人の介入を減らし、サービス品質を向上させるプロセス。AIOps が移行戦略で AWS どのように使用されるかの詳細については、「[オペレーション統合ガイド](#)」を参照してください。

### 非対称暗号化

暗号化用のパブリックキーと復号用のプライベートキーから成る 1 組のキーを使用した、暗号化のアルゴリズム。パブリックキーは復号には使用されないため共有しても問題ありませんが、プライベートキーの利用は厳しく制限する必要があります。

### アトミック性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID )

エラー、停電、その他の問題が発生した場合でも、データベースのデータ有効性と運用上の信頼性を保証する一連のソフトウェアプロパティ。

### 属性ベースのアクセスコントロール (ABAC )

部署、役職、チーム名など、ユーザーの属性に基づいてアクセス許可をきめ細かく設定する方法。詳細については、AWS Identity and Access Management ( [ABAC](#) ) [ドキュメント](#)の「[の AWS IAM](#)」を参照してください。

## 信頼できるデータソース

最も信頼性のある情報源とされるデータのプライマリバージョンを保存する場所。匿名化、編集、仮名化など、データを処理または変更する目的で、信頼できるデータソースから他の場所にデータをコピーすることができます。

## アベイラビリティゾーン

他のアベイラビリティゾーンの障害から AWS リージョン 隔離され、同じリージョン内の他のアベイラビリティゾーンへの低コストで低レイテンシーのネットワーク接続を提供する 内の個別の場所。

## AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF )

組織がクラウドに正常に移行するための効率的で効果的な計画を立て AWS ののに役立つ、 のガイドラインとベストプラクティスのフレームワークです。AWS CAF は、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用という 6 つの重点分野にガイダンスを分類します。ビジネス、人材、ガバナンスの観点では、ビジネススキルとプロセスに重点を置き、プラットフォーム、セキュリティ、オペレーションの視点は技術的なスキルとプロセスに焦点を当てています。例えば、人材の観点では、人事 (HR)、人材派遣機能、および人材管理を扱うステークホルダーを対象としています。この観点から、AWS CAF は、クラウド導入を成功させるための組織の準備に役立つ人材開発、トレーニング、コミュニケーションに関するガイダンスを提供します。詳細については、[AWS CAF ウェブサイト](#)と [AWS CAF ホワイトペーパー](#)を参照してください。

## AWS ワークロード認定フレームワーク (AWS WQF )

データベース移行ワークロードを評価し、移行戦略を推奨し、作業見積もりを提供するツール。AWS WQF は AWS Schema Conversion Tool ( AWS SCT) に含まれています。データベーススキーマとコードオブジェクト、アプリケーションコード、依存関係、およびパフォーマンス特性を分析し、評価レポートを提供します。

# B

## 不正なボット

個人または組織に混乱や損害を与えることを目的とした [ボット](#)。

## BCP

[事業継続計画](#)を参照してください。



## 動作グラフ

リソースの動作とインタラクションを経時的に示した、一元的なインタラクティブビュー。Amazon Detective で動作グラフを使用して、失敗したログオン試行、疑わしい API 呼び出し、および同様のアクションを調べることができます。詳細については、Detective ドキュメントの [Data in a behavior graph](#) を参照してください。

## ビッグエンディアンシステム

最上位バイトを最初に格納するシステム。 [エンディアンネス](#) も参照してください。

## 二項分類

バイナリ結果 (2 つの可能なクラスのうちの一つ) を予測するプロセス。例えば、お客様の機械学習モデルで「この E メールはスパムですか、それともスパムではありませんか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。または「この製品は書籍ですか、車ですか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。

## ブルームフィルター

要素がセットのメンバーであるかどうかをテストするために使用される、確率的でメモリ効率の高いデータ構造。

## ブルー/グリーンデプロイ

2 つの異なる同一の環境を作成するデプロイ戦略。現在のアプリケーションバージョンは 1 つの環境 (青) で実行し、新しいアプリケーションバージョンは他の環境 (緑) で実行します。この戦略は、影響を最小限に抑えながら迅速にロールバックするのに役立ちます。

## ボット

インターネット経由で自動タスクを実行し、人間のアクティビティやインタラクションをシミュレートするソフトウェアアプリケーション。インターネット上の情報のインデックスを作成するウェブクローラーなど、有益または有益なボットもあります。悪質なボットと呼ばれる他のボットの中には、個人や組織を混乱させたり、損害を与えたりすることを意図しているものがあります。

## ボットネット

[マルウェア](#) に感染し、[ボット](#) のヘルダーまたはボットオペレーターとして知られる 1 人の当事者による管理下にあるボットのネットワーク。ボットは、ボットとその影響をスケールするための最もよく知られているメカニズムです。

## ブランチ

コードリポジトリに含まれる領域。リポジトリに最初に作成するブランチは、メインブランチといます。既存のブランチから新しいブランチを作成し、その新しいブランチで機能を開発したり、バグを修正したりできます。機能を構築するために作成するブランチは、通常、機能ブランチと呼ばれます。機能をリリースする準備ができたなら、機能ブランチをメインブランチに統合します。詳細については、[「ブランチについて」](#) (GitHub ドキュメント) を参照してください。

## ブレイクグラスアクセス

例外的な状況では、承認されたプロセスを通じて、ユーザーが AWS アカウント 通常アクセス許可を持たないにすばやくアクセスできるようになります。詳細については、Well-Architected [ガイド](#) の「[ブレイクグラス手順の実装](#)」インジケータを参照してください。AWS

## ブラウフィールド戦略

環境の既存インフラストラクチャ。システムアーキテクチャにブラウフィールド戦略を導入する場合、現在のシステムとインフラストラクチャの制約に基づいてアーキテクチャを設計します。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウフィールド戦略と[グリーンフィールド](#)戦略を融合させることもできます。

## バッファキャッシュ

アクセス頻度が最も高いデータが保存されるメモリ領域。

## ビジネス能力

価値を生み出すためにビジネスが行うこと (営業、カスタマーサービス、マーケティングなど)。マイクロサービスのアーキテクチャと開発の決定は、ビジネス能力によって推進できます。詳細については、ホワイトペーパー [AWSでのコンテナ化されたマイクロサービスの実行](#) の [ビジネス機能を中心に組織化](#) セクションを参照してください。

## 事業継続計画 (BCP )

大規模移行など、中断を伴うイベントが運用に与える潜在的な影響に対処し、ビジネスを迅速に再開できるようにする計画。

## C

### CAF

[AWS 「クラウド導入フレームワーク」](#) を参照してください。

## Canary デプロイ

エンドユーザーへのバージョンの低速かつ段階的なリリース。自信が持てたら、新しいバージョンをデプロイし、現在のバージョン全体を置き換えます。

## CCoE

[「Cloud Center of Excellence」](#) を参照してください。

## CDC

[「変更データキャプチャ」](#) を参照してください。

## データキャプチャの変更 (CDC )

データソース (データベーステーブルなど) の変更を追跡し、その変更に関するメタデータを記録するプロセス。CDC は、同期を維持するためにターゲットシステムの変更を監査またはレプリケートするなど、さまざまな目的で使用できます。

## カオスエンジニアリング

障害や破壊的なイベントを意図的に導入して、システムの回復力をテストします。[AWS Fault Injection Service \( AWS FIS \)](#) を使用して、AWS ワークロードに負荷を与え、その応答を評価する実験を実行できます。

## CI/CD

[継続的インテグレーションと継続的デリバリー](#) を参照してください。

## 分類

予測を生成するのに役立つ分類プロセス。分類問題の機械学習モデルは、離散値を予測します。離散値は、常に互いに区別されます。例えば、モデルがイメージ内に車があるかどうかを評価する必要がある場合があります。

## クライアント側の暗号化

ターゲットがデータ AWS のサービスを受信する前に、ローカルでデータを暗号化します。

## Cloud Center of Excellence (CCoE )

クラウドのベストプラクティスの作成、リソースの移動、移行のタイムラインの確立、大規模変革を通じて組織をリードするなど、組織全体のクラウド導入の取り組みを推進する学際的なチーム。詳細については、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログの [CCoE 投稿](#) を参照してください。

## クラウドコンピューティング

リモートデータストレージと IoT デバイス管理に通常使用されるクラウドテクノロジー。クラウドコンピューティングは、一般的に [エッジコンピューティング](#) テクノロジーに接続されています。

## クラウド運用モデル

IT 組織において、1 つ以上のクラウド環境を構築、成熟、最適化するために使用される運用モデル。詳細については、[「クラウド運用モデルの構築」](#) を参照してください。

## 導入のクラウドステージ

組織が に移行するときに通常実行する 4 つのフェーズ AWS クラウド :

- プロジェクト — 概念実証と学習を目的として、クラウド関連のプロジェクトをいくつか実行する
- 基盤 — クラウド導入を拡大するための基本的な投資 (ランディングゾーンの作成、CCoE の定義、運用モデルの確立など)
- 移行 — 個々のアプリケーションの移行
- 再発明 — 製品とサービスの最適化、クラウドでのイノベーション

これらのステージは、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログのブログ記事 [「クラウドファーストへのジャーニー」](#) と [「導入のステージ」](#) で Stephen Orban によって定義されました。これらが AWS 移行戦略とどのように関連しているかについては、[「移行準備ガイド」](#) を参照してください。

## CMDB

[「設定管理データベース」](#) を参照してください。

## コードリポジトリ

ソースコードやその他の資産 (ドキュメント、サンプル、スクリプトなど) が保存され、バージョン管理プロセスを通じて更新される場所。一般的なクラウドリポジトリには、次のようなものがあります。GitHub または Bitbucket Cloud。コードの各バージョンはブランチと呼ばれます。マイクロサービスの構造では、各リポジトリは 1 つの機能専用です。1 つの CI/CD パイプラインで複数のリポジトリを使用できます。

## コールドキャッシュ

空である、または、かなり空きがある、もしくは、古いデータや無関係なデータが含まれているバッファキャッシュ。データベースインスタンスはメインメモリまたはディスクから読み取る必

要があり、バッファキャッシュから読み取るよりも時間がかかるため、パフォーマンスに影響します。

## コールドデータ

めったにアクセスされず、通常は過去のデータです。この種類のデータをクエリする場合、通常は低速なクエリでも問題ありません。このデータを低パフォーマンスで安価なストレージ階層またはクラスに移動すると、コストを削減することができます。

## コンピュータビジョン (CV)

機械学習を使用して、デジタル画像や動画などのビジュアル形式から情報を分析および抽出する [AI](#) の分野。例えば、 はオンプレミスのカメラネットワークに CV を追加するデバイス AWS Panorama を提供し、Amazon SageMaker は CV の画像処理アルゴリズムを提供します。

## 設定ドリフト

ワークロードの場合、設定は想定した状態から変化します。これにより、ワークロードが非標準になる可能性があり、通常は段階的かつ意図的ではありません。

## 設定管理データベース (CMDB)

データベースとその IT 環境 (ハードウェアとソフトウェアの両方のコンポーネントとその設定を含む) に関する情報を保存、管理するリポジトリ。通常、移行のポートフォリオ検出および分析段階で CMDB のデータを使用します。

## コンフォーマンスパック

コンプライアンスチェックとセキュリティチェックをカスタマイズするためにアセンブルできる AWS Config ルールと修復アクションのコレクション。YAML テンプレートを使用して、コンフォーマンスパックを AWS アカウント とリージョン、または組織全体に 1 つのエンティティとしてデプロイできます。詳細については、AWS Config ドキュメントの「[コンフォーマンスパック](#)」を参照してください。

## 継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)

ソフトウェアリリースプロセスのソース、ビルド、テスト、ステージング、本番の各ステージを自動化するプロセス。CI/CD is commonly described as a pipeline. CI/CD は、プロセスの自動化、生産性の向上、コード品質の向上、より迅速な提供に役立ちます。詳細については、「[継続的デリバリーの利点](#)」を参照してください。CD は継続的デプロイ (Continuous Deployment) の略語でもあります。詳細については「[継続的デリバリーと継続的なデプロイ](#)」を参照してください。

## CV

[「コンピュータビジョン」](#)を参照してください。

## D

### 保管中のデータ

ストレージ内にあるデータなど、常に自社のネットワーク内にあるデータ。

### データ分類

ネットワーク内のデータを重要度と機密性に基づいて識別、分類するプロセス。データに適した保護および保持のコントロールを判断する際に役立つため、あらゆるサイバーセキュリティのリスク管理戦略において重要な要素です。データ分類は、AWS Well-Architected フレームワークのセキュリティの柱のコンポーネントです。詳細については、[データ分類](#)を参照してください。

### データドリフト

実稼働データと ML モデルのトレーニングに使用されたデータとの間に有意な差異が生じたり、入力データが時間の経過と共に有意に変化したりすることです。データドリフトは、ML モデル予測の全体的な品質、精度、公平性を低下させる可能性があります。

### 転送中のデータ

ネットワーク内 (ネットワークリソース間など) を活発に移動するデータ。

### データメッシュ

一元的な管理とガバナンスにより、分散型の分散データ所有権を提供するアーキテクチャフレームワーク。

### データ最小化

厳密に必要なデータのみを収集し、処理するという原則。データ最小化を実践 AWS クラウドすることで、プライバシーリスク、コスト、分析のカーボンフットプリントを削減できます。

### データ境界

AWS 環境内の一連の予防ガードレール。信頼できる ID のみが、期待されるネットワークから信頼できるリソースにアクセスしていることを確実にします。詳細については、[「でのデータ境界の構築 AWS」](#)を参照してください。

## データの事前処理

raw データをお客様の機械学習モデルで簡単に解析できる形式に変換すること。データの前処理とは、特定の列または行を削除して、欠落している、矛盾している、または重複する値に対処することを意味します。

## データ出所

データの生成、送信、保存の方法など、データのライフサイクル全体を通じてデータの出所と履歴を追跡するプロセス。

## データ件名

データを収集、処理している個人。

## データウェアハウス

分析などのビジネスインテリジェンスをサポートするデータ管理システム。データウェアハウスには通常、大量の履歴データが含まれており、クエリや分析によく使用されます。

## データベース定義言語 (DDL )

データベース内のテーブルやオブジェクトの構造を作成または変更するためのステートメントまたはコマンド。

## データベース操作言語 (DML )

データベース内の情報を変更 (挿入、更新、削除) するためのステートメントまたはコマンド。

## DDL

[「データベース定義言語」](#)を参照してください。

## ディープアンサンブル

予測のために複数の深層学習モデルを組み合わせる。ディープアンサンブルを使用して、より正確な予測を取得したり、予測の不確実性を推定したりできます。

## ディープラーニング

人工ニューラルネットワークの複数層を使用して、入力データと対象のターゲット変数の間のマッピングを識別する機械学習サブフィールド。

## defense-in-depth

一連のセキュリティメカニズムとコントロールをコンピュータネットワーク全体に層状に重ねて、ネットワークとその内部にあるデータの機密性、整合性、可用性を保護する情報セキュリティ



テイの手法。この戦略を採用するときは AWS、AWS Organizations 構造の異なるレイヤーに複数のコントロールを追加して、リソースの安全性を確保します。例えば、a defense-in-depth アプローチでは、多要素認証、ネットワークセグメンテーション、暗号化を組み合わせることができます。

## 委任管理者

では AWS Organizations、互換性のあるサービスが AWS メンバーアカウントを登録して組織のアカウントを管理し、そのサービスのアクセス許可を管理できます。このアカウントを、そのサービスの委任管理者と呼びます。詳細、および互換性のあるサービスの一覧は、AWS Organizations ドキュメントの[AWS Organizationsで利用できるサービス](#)を参照してください。

## デプロイメント

アプリケーション、新機能、コードの修正をターゲットの環境で利用できるようにするプロセス。デプロイでは、コードベースに変更を施した後、アプリケーションの環境でそのコードベースを構築して実行します。

## 開発環境

[「環境」](#)を参照してください。

## 検出管理

イベントが発生したときに、検出、ログ記録、警告を行うように設計されたセキュリティコントロール。これらのコントロールは副次的な防衛手段であり、実行中の予防的コントロールをすり抜けたセキュリティイベントをユーザーに警告します。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Detective controls](#)を参照してください。

## 開発値ストリームマッピング (DVSM )

ソフトウェア開発ライフサイクルのスピードと品質に悪影響を及ぼす制約を特定し、優先順位を付けるために使用されるプロセス。DVSM は、もともとリーンな製造プラクティス向けに設計されたバリューストリームマッピングプロセスを拡張します。ソフトウェア開発プロセスを通じて価値を創造し、動かすために必要なステップとチームに焦点を当てています。

## デジタルツイン

建物、工場、産業機器、生産ラインなど、現実世界のシステムを仮想的に表現したものです。デジタルツインは、予知保全、リモートモニタリング、生産最適化をサポートします。

## ディメンションテーブル

[スタースキーマ](#)では、ファクトテーブル内の量的データに関するデータ属性を含む小さなテーブル。ディメンションテーブル属性は通常、テキストフィールドまたはテキストのように動作する



離散数値です。これらの属性は、クエリの制約、フィルタリング、結果セットのラベル付けによく使用されます。

## ディザスタ

ワークロードまたはシステムが、導入されている主要な場所でのビジネス目標の達成を妨げるイベント。これらのイベントは、自然災害、技術的障害、または意図しない設定ミスやマルウェア攻撃などの人間の行動の結果である場合があります。

## ディザスタリカバリ (DR)

[災害](#)によるダウンタイムとデータ損失を最小限に抑えるために使用する戦略とプロセス。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[でのワークロードのディザスタリカバリ](#)」[AWS: クラウドでのリカバリ](#)」を参照してください。

## DML

[「データベース操作言語」](#)を参照してください。

## ドメイン駆動型設計

各コンポーネントが提供している変化を続けるドメイン、またはコアビジネス目標にコンポーネントを接続して、複雑なソフトウェアシステムを開発するアプローチ。この概念は、エリック・エヴァンスの著書、Domain-Driven Design: Tackling Complexity in the Heart of Software (ドメイン駆動設計:ソフトウェアの中心における複雑さへの取り組み) で紹介されています (ポストン: Addison-Wesley Professional, 2003)。strangler fig パターンでドメイン駆動型設計を使用する方法については、「[コンテナと Amazon Word API Gateway を使用してレガシー Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズする](#)」を参照してください。

## DR

[「ディザスタリカバリ」](#)を参照してください。

## ドリフト検出

ベースライン設定からの逸脱の追跡。例えば、AWS CloudFormation を使用して[システムリソースのドリフトを検出](#)したり、を使用して AWS Control Tower ガバナンス要件のコンプライアンスに影響を与える可能性のある[ランディングゾーンの変更を検出](#)したりできます。

## DVSM

[「開発値ストリームマッピング」](#)を参照してください。

## E

### EDA

[「探索的データ分析」](#)を参照してください。

### EDI

[「電子データ交換」](#)を参照してください。

### エッジコンピューティング

IoT ネットワークのエッジにあるスマートデバイスの計算能力を高めるテクノロジー。[クラウドコンピューティング](#)と比較すると、エッジコンピューティングは通信レイテンシーを短縮し、応答時間を短縮できます。

### 電子データ交換 (EDI)

組織間のビジネスドキュメントの自動交換。詳細については、[「電子データ交換とは」](#)を参照してください。

### 暗号化

人間が読み取り可能なプレーンテキストデータを暗号文に変換するコンピューティングプロセス。

### 暗号化キー

暗号化アルゴリズムが生成した、ランダム化されたビットからなる暗号文字列。キーの長さは決まっておらず、各キーは予測できないように、一意になるように設計されています。

### エンディアン

コンピュータメモリにバイトが格納される順序。ビッグエンディアンシステムでは、最上位バイトが最初に格納されます。リトルエンディアンシステムでは、最下位バイトが最初に格納されます。

### エンドポイント

[「サービスエンドポイント」](#)を参照してください。

### エンドポイントサービス

Virtual Private Cloud (VPC) でホストして他のユーザーと共有できるサービス。を使用してエンドポイントサービスを作成し AWS PrivateLink、他の AWS アカウント または AWS Identity and

Access Management ( IAM) プリンシパルにアクセス許可を付与できます。これらのアカウントまたはプリンシパルは、インターフェイス VPC エンドポイントを作成することで、エンドポイントサービスにプライベートに接続できます。詳細については、Amazon Virtual Private Cloud (Amazon [VPC](#)) ドキュメントの「[エンドポイントサービスの作成](#)」を参照してください。VPC

## エンタープライズリソースプランニング (ERP)

エンタープライズの主要なビジネスプロセス (会計、[MES](#)、プロジェクト管理など) を自動化および管理するシステム。

## エンベロープ暗号化

暗号化キーを、別の暗号化キーを使用して暗号化するプロセス。詳細については、AWS Key Management Service ( AWS KMS) ドキュメントの「[エンベロープ暗号化](#)」を参照してください。

## 環境

実行中のアプリケーションのインスタンス。クラウドコンピューティングにおける一般的な環境の種類は以下のとおりです。

- 開発環境 — アプリケーションのメンテナンスを担当するコアチームのみが利用できる、実行中のアプリケーションのインスタンス。開発環境は、上位の環境に昇格させる変更をテストするときに使用します。このタイプの環境は、テスト環境と呼ばれることもあります。
- 下位環境 — 初期ビルドやテストに使用される環境など、アプリケーションのすべての開発環境。
- 本番環境 — エンドユーザーがアクセスできる、実行中のアプリケーションのインスタンス。CI/CD パイプラインでは、本番環境が最後のデプロイ環境になります。
- 上位環境 — コア開発チーム以外のユーザーがアクセスできるすべての環境。これには、本番環境、本番前環境、ユーザー承認テスト環境などが含まれます。

## エピック

アジャイル方法論で、お客様の作業の整理と優先順位付けに役立つ機能カテゴリ。エピックでは、要件と実装タスクの概要についてハイレベルな説明を提供します。例えば、AWS CAF セキュリティエピックには、ID とアクセスの管理、検出コントロール、インフラストラクチャセキュリティ、データ保護、インシデント対応が含まれます。AWS 移行戦略のエピックの詳細については、[プログラム実装ガイド](#) を参照してください。

## ERP

[「エンタープライズリソース計画」](#) を参照してください。

## 探索的データ分析 (EDA)

データセットを分析してその主な特性を理解するプロセス。お客様は、データを収集または集計してから、パターンの検出、異常の検出、および前提条件のチェックのための初期調査を実行します。EDAは、サマリー統計を計算し、データの視覚化を作成することによって実行されます。

## F

### ファクトテーブル

[星スキーマ](#)の中央テーブル。事業運営に関する量的データを保存します。通常、ファクトテーブルには、メジャーを含む列とディメンションテーブルへの外部キーを含む列の2種類の列が含まれます。

### フェイルファスト

頻繁で段階的なテストを使用して開発ライフサイクルを短縮する哲学。これはアジャイルアプローチの重要な部分です。

### 障害分離の境界

では AWS クラウド、アベイラビリティゾーン、コントロールプレーン AWS リージョン、データプレーンなどの境界で、障害の影響を制限し、ワークロードの耐障害性の向上に役立ちます。詳細については、[AWS 「障害分離境界」](#)を参照してください。

### 機能ブランチ

[「ブランチ」](#)を参照してください。

### 特徴量

お客様が予測に使用する入力データ。例えば、製造コンテキストでは、特徴量は製造ラインから定期的にキャプチャされるイメージの可能性もあります。

### 特徴量重要度

モデルの予測に対する特徴量の重要性。これは通常、Shapley Additive Explanations (SHAP) や積分勾配など、さまざまな手法で計算できる数値スコアとして表されます。詳細については、[「を使用した機械学習モデルの解釈可能性 : AWS」](#)を参照してください。

### 機能変換

追加のソースによるデータのエンリッチ化、値のスケーリング、単一のデータフィールドからの複数の情報セットの抽出など、機械学習プロセスのデータを最適化すること。これにより、機械

学習モデルはデータの恩恵を受けることができます。例えば、「2021-05-27 00:15:37」の日付を「2021年」、「5月」、「木」、「15」に分解すると、学習アルゴリズムがさまざまなデータコンポーネントに関連する微妙に異なるパターンを学習するのに役立ちます。

## 数ショットプロンプト

同様のタスクを実行するように求める前に、タスクと必要な出力を示す少数の例を [LLM](#) に提供します。この手法は、プロンプトに埋め込まれた例 (ショット) からモデルが学習するコンテキスト内学習のアプリケーションです。少数ショットプロンプトは、特定のフォーマット、推論、またはドメイン知識を必要とするタスクに効果的です。[ゼロショットプロンプトも参照してください](#)。

## FGAC

[「きめ細かなアクセスコントロール」](#) を参照してください。

### きめ細かなアクセスコントロール (FGAC)

複数の条件を使用してアクセス要求を許可または拒否すること。

## フラッシュカット移行

段階的なアプローチを使用するのではなく、[変更データキャプチャ](#) による継続的なデータレプリケーションを使用して、可能な限り短い時間でデータを移行するデータベース移行方法。目的はダウンタイムを最小限に抑えることです。

## FM

[「基盤モデル」](#) を参照してください。

### 基盤モデル (FM)

一般化データとラベルなしデータの大規模なデータセットでトレーニングされている大規模な深層学習ニューラルネットワーク。FMsは、言語の理解、テキストと画像の生成、自然言語での会話など、さまざまな一般的なタスクを実行できます。詳細については、[「基礎モデルとは」](#) を参照してください。

## G

### 生成 AI

大量のデータに対してトレーニングされ、シンプルなテキストプロンプトを使用してイメージ、動画、テキスト、オーディオなどの新しいコンテンツやアーティファクトを作成できる [AI](#) モデルのサブセット。詳細については、[「生成 AI とは」](#) を参照してください。

## ジオブロッキング

[地理的制限](#)を参照してください。

### 地理的制限 (ジオブロッキング)

Amazon CloudFront では、特定の国のユーザーがコンテンツディストリビューションにアクセスできないようにするオプションです。アクセスを許可する国と禁止する国は、許可リストまたは禁止リストを使って指定します。詳細については、CloudFront [ドキュメントの「コンテンツの地理的分散の制限」](#)を参照してください。

### Gitflow ワークフロー

下位環境と上位環境が、ソースコードリポジトリでそれぞれ異なるブランチを使用する方法。Gitflow ワークフローはレガシーと見なされ、[トランクベースのワークフロー](#)はモダンで推奨されるアプローチです。

### ゴールデンイメージ

システムまたはソフトウェアの新しいインスタンスをデプロイするためのテンプレートとして使用されるシステムまたはソフトウェアのスナップショット。例えば、製造では、ゴールデンイメージを使用して複数のデバイスにソフトウェアをプロビジョニングし、デバイスの製造オペレーションの速度、スケーラビリティ、生産性を向上させることができます。

### グリーンフィールド戦略

新しい環境に既存のインフラストラクチャが存在しないこと。システムアーキテクチャにグリーンフィールド戦略を導入する場合、既存のインフラストラクチャ (別名 [ブラウンフィールド](#)) との互換性の制約を受けることなく、あらゆる新しいテクノロジーを選択できます。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウンフィールド戦略とグリーンフィールド戦略を融合させることもできます。

### ガードレール

組織単位 (OUs) 全体のリソース、ポリシー、コンプライアンスの管理に役立つ大まかなルール。予防ガードレールは、コンプライアンス基準に一致するようにポリシーを実施します。これらは、サービスコントロールポリシーと IAM アクセス許可の境界を使用して実装されます。検出ガードレールは、ポリシー違反やコンプライアンス上の問題を検出し、修復のためのアラートを発信します。これらは AWS Config、Amazon GuardDuty、AWS Security Hub、AWS Trusted Advisor Amazon Inspector、およびカスタム AWS Lambda チェックを使用して実装されます。

# H

## HA

[高可用性](#)を参照してください。

### 異種混在データベースの移行

別のデータベースエンジンを使用するターゲットデータベースへお客様の出典データベースの移行 (例えば、Oracle から Amazon Aurora)。異種間移行は通常、アーキテクチャの再設計作業の一部であり、スキーマの変換は複雑なタスクになる可能性があります。[AWS は、スキーマの変換に役立つ AWS SCTを提供します。](#)

### ハイアベイラビリティ (HA)

課題や災害が発生した場合に、介入なしにワークロードを継続的に運用できること。HA システムは、自動的にフェイルオーバーし、一貫して高品質のパフォーマンスを提供し、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えながらさまざまな負荷や障害を処理するように設計されています。

### ヒストリアンのモダナイゼーション

製造業のニーズによりよく応えるために、オペレーションテクノロジー (OT) システムをモダナイズし、アップグレードするためのアプローチ。ヒストリアンは、工場内のさまざまなソースからデータを収集して保存するために使用されるデータベースの一種です。

### ホールドアウトデータ

[機械学習](#)モデルのトレーニングに使用されるデータセットから保留されている、ラベル付きの履歴データの一部。ホールドアウトデータを使用してモデル予測をホールドアウトデータと比較することで、モデルのパフォーマンスを評価できます。

### 同種データベースの移行

ソースデータベースを、同じデータベースエンジンを共有するターゲットデータベース (Microsoft SQL Server から Amazon RDS for SQL Server など) に移行します。同種間移行は、通常、リホストまたはリプラットフォーム化の作業の一部です。ネイティブデータベースユーティリティを使用して、スキーマを移行できます。

### ホットデータ

リアルタイムデータや最近の翻訳データなど、頻繁にアクセスされるデータ。通常、このデータには高速なクエリ応答を提供する高性能なストレージ階層またはクラスが必要です。



## ホットフィックス

本番環境の重大な問題を修正するために緊急で配布されるプログラム。緊急性のため、通常、ホットフィックスは一般的な DevOps リリースワークフローの外部で行われます。

## ハイパーケア期間

カットオーバー直後、移行したアプリケーションを移行チームがクラウドで管理、監視して問題に対処する期間。通常、この期間は 1~4 日です。ハイパーケア期間が終了すると、アプリケーションに対する責任は一般的に移行チームからクラウドオペレーションチームに移ります。

## I

### IaC

[Infrastructure as Code](#) を参照してください。

### ID ベースのポリシー

AWS クラウド 環境内のアクセス許可を定義する 1 つ以上の IAM プリンシパルにアタッチされたポリシー。

### アイドル状態のアプリケーション

90 日間の平均 CPU およびメモリ使用量が 5~20% のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するか、オンプレミスに保持するのが一般的です。

## IIoT

[「産業モノのインターネット」](#) を参照してください。

### イミュータブルインフラストラクチャ

既存のインフラストラクチャを更新、パッチ適用、または変更するのではなく、本番環境のワークロードに新しいインフラストラクチャをデプロイするモデル。イミュータブルなインフラストラクチャは、本質的に [ミュータブルなインフラストラクチャ](#) よりも一貫性、信頼性、予測性が高くなります。詳細については、AWS 「Well-Architected フレームワーク」の「[イミュータブルインフラストラクチャを使用したデプロイ](#)」のベストプラクティスを参照してください。

### インバウンド (インGRESS) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション外からのネットワーク接続を受け入れ、検査し、ルーティングする VPC。 [AWS セキュリティリファレンスアーキテクチャ](#) で



は、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向インターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションVPCsを使用してネットワークアカウントを設定することをお勧めします。

## 増分移行

アプリケーションを1回ですべてカットオーバーするのではなく、小さい要素に分けて移行するカットオーバー戦略。例えば、最初は少数のマイクロサービスまたはユーザーのみを新しいシステムに移行する場合があります。すべてが正常に機能することを確認できたら、残りのマイクロサービスやユーザーを段階的に移行し、レガシーシステムを廃止できるようにします。この戦略により、大規模な移行に伴うリスクが軽減されます。

## インダストリー 4.0

2016年に [Klaus Schwab](#) によって導入された用語は、接続、リアルタイムデータ、自動化、分析、AI/MLの進歩によるビジネスプロセスのモダナイゼーションを指します。

## インフラストラクチャ

アプリケーションの環境に含まれるすべてのリソースとアセット。

## Infrastructure as Code (IaC)

アプリケーションのインフラストラクチャを一連の設定ファイルを使用してプロビジョニングし、管理するプロセス。IaCは、新しい環境を再現可能で信頼性が高く、一貫性のあるものにするため、インフラストラクチャを一元的に管理し、リソースを標準化し、スケールを迅速に行えるように設計されています。

## 産業モノのインターネット (IIoT)

製造、エネルギー、自動車、ヘルスケア、ライフサイエンス、農業などの産業部門におけるインターネットに接続されたセンサーやデバイスの使用。詳細については、[「産業モノのインターネット \(IIoT\) デジタルトランスフォーメーション戦略の構築」](#)を参照してください。

## 検査VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、VPC (同一または異なる内 AWS リージョン)、インターネット、オンプレミスネットワーク間のネットワークトラフィックの検査を管理する一元化された VPCs。 [AWS セキュリティリファレンスアーキテクチャ](#)では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向インターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションVPCsを使用してネットワークアカウントを設定することをお勧めします。

## IoT

インターネットまたはローカル通信ネットワークを介して他のデバイスやシステムと通信する、センサーまたはプロセッサが組み込まれた接続済み物理オブジェクトのネットワーク。詳細については、「[IoT とは](#)」を参照してください。

### 解釈可能性

機械学習モデルの特性で、モデルの予測がその入力にどのように依存するかを人間が理解できる度合いを表します。詳細については、「[AWS による機械学習モデルの解釈可能性](#)」を参照してください。

## IoT

「[モノのインターネット](#)」を参照してください。

## IT 情報ライブラリ (ITIL )

IT サービスを提供し、これらのサービスをビジネス要件に合わせるための一連のベストプラクティス。ITIL は ITSM の基盤を提供します。

## IT サービス管理 (ITSM )

組織の IT サービスの設計、実装、管理、およびサポートに関連する活動。クラウドオペレーションと ITSM ツールの統合については、「[オペレーション統合ガイド](#)」を参照してください。

## ITIL

「[IT 情報ライブラリ](#)」を参照してください。

## ITSM

「[IT サービス管理](#)」を参照してください。

## L

## ラベルベースのアクセスコントロール (LBAC )

ユーザーとデータ自体にそれぞれセキュリティラベル値が明示的に割り当てられている必須アクセスコントロール (MAC) の実装。ユーザーセキュリティラベルとデータセキュリティラベルが交差する部分によって、ユーザーに表示される行と列が決まります。

## ランディングゾーン

ランディングゾーンは、スケーラブルで安全な、適切に設計されたマルチアカウント AWS 環境です。これは、組織がセキュリティおよびインフラストラクチャ環境に自信を持ってワークロー

ドとアプリケーションを迅速に起動してデプロイできる出発点です。ランディングゾーンの詳細については、[安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ](#) を参照してください。

## 大規模言語モデル (LLM)

大量のデータに基づいて事前トレーニングされた深層学習 AI モデル。LLM は、質問への回答、ドキュメントの要約、テキストの他の言語への翻訳、文の完了など、複数のタスクを実行できます。詳細については、[LLMs とは](#) を参照してください。

## 大規模な移行

300 台以上のサーバの移行。

## LBAC

[「ラベルベースのアクセスコントロール](#)」を参照してください。

## 最小特権

タスクの実行には必要最低限の権限を付与するという、セキュリティのベストプラクティス。詳細については、IAM ドキュメントの [「最小特権のアクセス許可を適用する](#)」を参照してください。

## リフトアンドシフト

[「7R](#)」を参照してください。

## リトルエンディアンシステム

最下位バイトを最初に格納するシステム。[エンディアンネス](#)も参照してください。

## LLM

[「大規模言語モデル](#)」を参照してください。

## 下位環境

[「環境](#)」を参照してください。

# M

## 機械学習 (ML)

パターン認識と学習にアルゴリズムと手法を使用する人工知能の一種。ML は、モノのインターネット (IoT) データなどの記録されたデータを分析して学習し、パターンに基づく統計モデルを生成します。詳細については、[「機械学習](#)」を参照してください。

## メインブランチ

[「ブランチ」](#)を参照してください。

## マルウェア

コンピュータのセキュリティまたはプライバシーを侵害するように設計されているソフトウェア。マルウェアは、コンピュータシステムの中断、機密情報の漏洩、不正アクセスにつながる可能性があります。マルウェアの例としては、ウイルス、ワーム、ランサムウェア、トロイの木馬、スパイウェア、キーロガーなどがあります。

## マネージドサービス

AWS のサービスがインフラストラクチャレイヤー、オペレーティングシステム、プラットフォーム AWS を運用し、ユーザーがエンドポイントにアクセスしてデータを保存および取得する。Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) と Amazon DynamoDB は、マネージドサービスの例です。これらは抽象化されたサービスとも呼ばれます。

## 製造実行システム (MES)

生産プロセスを追跡、モニタリング、文書化、制御するためのソフトウェアシステム。これにより、生産現場の生産物が完成した製品に変換されます。

## MAP

[「移行促進プログラム」](#)を参照してください。

## メカニズム

ツールを作成し、ツールの採用を推進し、調整のために結果を検査する完全なプロセス。メカニズムは、動作中にそれ自体を強化して改善するサイクルです。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの[「メカニズムの構築」](#)を参照してください。

## メンバーアカウント

組織の一部である管理アカウント AWS アカウント 以外のすべて AWS Organizations。アカウントが組織のメンバーになることができるのは、一度に 1 つのみです。

## MES

[「製造実行システム」](#)を参照してください。

## メッセージキューイングテレメトリトランスポート (MQTT)

リソースに制約のある IoT デバイス用の、[パブリッシュ/サブスクライブ](#)パターンに基づく軽量な machine-to-machine (M2M) 通信プロトコル。

## マイクロサービス

明確に定義された APIs を介して通信し、通常は小規模で自己完結型のチームが所有する小規模で独立したサービス。例えば、保険システムには、販売やマーケティングなどのビジネス機能、または購買、請求、分析などのサブドメインにマッピングするマイクロサービスが含まれる場合があります。マイクロサービスの利点には、俊敏性、柔軟なスケーリング、容易なデプロイ、再利用可能なコード、回復力などがあります。詳細については、[AWS「サーバーレスサービスを使用したマイクロサービスの統合」](#)を参照してください。

### マイクロサービスアーキテクチャ

各アプリケーションプロセスをマイクロサービスとして実行する独立したコンポーネントを使用してアプリケーションを構築するアプローチ。これらのマイクロサービスは、軽量な APIs を使用して明確に定義されたインターフェイスを介して通信します。このアーキテクチャの各マイクロサービスは、アプリケーションの特定の機能に対する需要を満たすように更新、デプロイ、およびスケーリングできます。詳細については、「[でのマイクロサービスの実装 AWS](#)」を参照してください。

### Migration Acceleration Program (MAP)

コンサルティングサポート、トレーニング、サービスを提供する AWS プログラム。組織がクラウドへの移行のための強固な運用基盤を構築し、移行の初期コストを相殺するのに役立ちます。MAP には、従来の移行を体系的に実行するための移行方法論と、一般的な移行シナリオを自動化および高速化するための一連のツールが含まれています。

### 大規模な移行

アプリケーションポートフォリオの大部分を次々にクラウドに移行し、各ウェーブでより多くのアプリケーションを高速に移動させるプロセス。この段階では、以前の段階から学んだベストプラクティスと教訓を使用して、移行ファクトリー チーム、ツール、プロセスのうち、オートメーションとアジャイルデリバリーによってワークロードの移行を合理化します。これは、[AWS 移行戦略](#) の第 3 段階です。

### 移行ファクトリー

自動化された俊敏性のあるアプローチにより、ワークロードの移行を合理化する部門横断的なチーム。移行ファクトリーチームには、通常、運用、ビジネスアナリストと所有者、移行エンジニア、デベロッパー、スプリントに取り組む DevOps プロフェッショナルが含まれます。エンタープライズアプリケーションポートフォリオの 20~50% は、ファクトリーのアプローチによって最適化できる反復パターンで構成されています。詳細については、このコンテンツセットの[移行ファクトリーに関する解説](#)と [Cloud Migration Factory ガイド](#)を参照してください。

## 移行メタデータ

移行を完了するために必要なアプリケーションおよびサーバーに関する情報。移行パターンごとに、異なる一連の移行メタデータが必要です。移行メタデータの例には、ターゲットサブネット、セキュリティグループ、AWS アカウントなどがあります。

## 移行パターン

移行戦略、移行先、および使用する移行アプリケーションまたはサービスを詳述する、反復可能な移行タスク。例: AWS アプリケーション移行サービスを使用して Amazon EC2 への移行をリホストします。

## 移行ポートフォリオ評価 (MPA )

に移行するためのビジネスケースを検証するための情報を提供するオンラインツール AWS クラウド。MPA は、詳細なポートフォリオ評価 (サーバーの適切なサイジング、価格設定、TCO 比較、移行コスト分析) と移行計画 (アプリケーションデータ分析とデータ収集、アプリケーショングループ化、移行の優先順位付け、ウェーブプランニング) を提供します。[MPA ツール](#) (ログインが必要) は、すべての AWS コンサルタントと APN パートナーコンサルタントが無料で利用できます。

## 移行準備状況評価 (MRA )

AWS CAF を使用して、組織のクラウド準備状況に関するインサイトを取得し、長所と短所を特定し、特定されたギャップを埋めるためのアクションプランを構築するプロセス。詳細については、[移行準備状況ガイド](#) を参照してください。MRA は[AWS 移行戦略](#)の最初のフェーズです。

## 移行戦略

ワークロードを に移行するために使用するアプローチ AWS クラウド。詳細については、この用語集の「[7 Rs](#) エントリ」と「[組織を動員して大規模な移行を加速する](#)」を参照してください。

## ML

[???](#) 「機械学習」を参照してください。

## モダナイゼーション

古い (レガシーまたはモノリシック) アプリケーションとそのインフラストラクチャをクラウド内の俊敏で弾力性のある高可用性システムに変換して、コストを削減し、効率を高め、イノベーションを活用します。詳細については、「」の「[アプリケーションをモダナイズするための戦略 AWS クラウド](#)」を参照してください。

## モダナイゼーション準備状況評価

組織のアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を判断し、利点、リスク、依存関係を特定し、組織がこれらのアプリケーションの将来の状態をどの程度適切にサポートできるかを決定するのに役立つ評価。評価の結果として、ターゲットアーキテクチャのブループリント、モダナイゼーションプロセスの開発段階とマイルストーンを詳述したロードマップ、特定されたギャップに対処するためのアクションプランが得られます。詳細については、[「」の「アプリケーションのモダナイゼーション準備状況の評価 AWS クラウド」](#)を参照してください。

### モノリシックアプリケーション (モノリス)

緊密に結合されたプロセスを持つ単一のサービスとして実行されるアプリケーション。モノリシックアプリケーションにはいくつかの欠点があります。1つのアプリケーション機能エクスペリエンスの需要が急増する場合は、アーキテクチャ全体をスケーリングする必要があります。モノリシックアプリケーションの特徴を追加または改善することは、コードベースが大きくなると複雑になります。これらの問題に対処するには、マイクロサービスアーキテクチャを使用できます。詳細については、[モノリスをマイクロサービスに分解する](#)を参照してください。

### MPA

[「移行ポートフォリオ評価」](#)を参照してください。

### MQTT

[「Message Queuing Telemetry Transport」](#)を参照してください。

### 多クラス分類

複数のクラスの予測を生成するプロセス (2 つ以上の結果の 1 つを予測します)。例えば、機械学習モデルが、「この製品は書籍、自動車、電話のいずれですか?」または、「このお客様にとって最も関心のある商品のカテゴリはどれですか?」と聞くかもしれません。

### ミュータブルインフラストラクチャ

本番ワークロードの既存のインフラストラクチャを更新および変更するモデル。Well-Architected AWS フレームワークでは、一貫性、信頼性、予測可能性を向上させるために、[イミュータブルインフラストラクチャ](#)をベストプラクティスとして使用することを推奨しています。

## O

### OAC

[「オリジンアクセスコントロール」](#)を参照してください。



## OAI

[「オリジンアクセスアイデンティティ」](#)を参照してください。

## OCM

[「組織の変更管理」](#)を参照してください。

## オフライン移行

移行プロセス中にソースワークロードを停止させる移行方法。この方法はダウンタイムが長くなるため、通常は重要ではない小規模なワークロードに使用されます。

## OI

[「オペレーションの統合」](#)を参照してください。

## OLA

[「運用レベルの契約」](#)を参照してください。

## オンライン移行

ソースワークロードをオフラインにせずにターゲットシステムにコピーする移行方法。ワークロードに接続されているアプリケーションは、移行中も動作し続けることができます。この方法はダウンタイムがゼロから最小限で済むため、通常は重要な本番稼働環境のワークロードに使用されます。

## OPC UA

[「Open Process Communications - Unified Architecture」](#)を参照してください。

## オープンプロセス通信 - 統合アーキテクチャ (OPC-UA)

産業用オートメーション用の A machine-to-machine (M2M) 通信プロトコル。OPC-UA は、データの暗号化、認証、認可スキームを備えた相互運用性標準を提供します。

## 運用レベルの契約 (OLA )

サービスレベルアグリーメント (SLA) をサポートするために、どの機能 IT グループが相互に提供することを約束するかを明確にする契約。

## 運用準備状況レビュー (ORR )

インシデントや潜在的な障害の理解、評価、防止、または範囲の縮小に役立つ質問のチェックリストと関連するベストプラクティス。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの[「運用準備状況レビュー \(ORR \)」](#)を参照してください。



## 運用テクノロジー (OT)

物理環境と連携して産業運用、機器、インフラストラクチャを制御するハードウェアおよびソフトウェアシステム。製造では、OT と情報技術 (IT) システムの統合が、[Industry 4.0](#) トランスフォーメーションの主要な焦点です。

## オペレーション統合 (OI)

クラウドでオペレーションをモダナイズするプロセスには、準備計画、オートメーション、統合が含まれます。詳細については、[オペレーション統合ガイド](#) を参照してください。

## 組織の証跡

組織 AWS アカウント 内のすべてのイベントをログ AWS CloudTrail に記録することによって作成された証跡 AWS Organizations。証跡は、組織に含まれている各 AWS アカウントに作成され、各アカウントのアクティビティを追跡します。詳細については、CloudTrail [ドキュメントの「組織の証跡の作成」](#) を参照してください。

## 組織変更管理 (OCM )

人材、文化、リーダーシップの観点から、主要な破壊的なビジネス変革を管理するためのフレームワーク。OCM は、変化の採用を加速し、移行に伴う問題に対処し、文化や組織の変化を推進することで、組織が新しいシステムや戦略に備え、移行するのに役立ちます。AWS 移行戦略では、クラウド導入プロジェクトに必要な変化のスピードから、このフレームワークは人材アクセラレーションと呼ばれます。詳細については、[OCM ガイド](#) を参照してください。

## オリジンアクセスコントロール (OAC )

In CloudFront は、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) コンテンツを保護するためのアクセスを制限するための拡張オプションです。OAC は AWS リージョン、すべての S3 バケット、AWS KMS ( SSE-KMS) によるサーバー側の暗号化、および S3 バケットへの動的 PUT および DELETE リクエストをサポートします。

## オリジンアクセスアイデンティティ (OAI )

In CloudFront は、Amazon S3 コンテンツを保護するためのアクセスを制限するためのオプションです。OAI を使用すると、CloudFront は Amazon S3 が認証できるプリンシパルを作成します。認証されたプリンシパルは、特定の CloudFront ディストリビューションを介してのみ S3 バケット内のコンテンツにアクセスできます。Word も参照してください。[OAC](#) より詳細で強化されたアクセスコントロールを提供します。

## ORR

[「運用準備状況レビュー」](#) を参照してください。

## OT

[「運用技術」](#)を参照してください。

### アウトバウンド (出力) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション内から開始されたネットワーク接続を処理する VPC。[AWS セキュリティリファレンスアーキテクチャ](#)では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向インターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションVPCsを使用してネットワークアカウントを設定することをお勧めします。

## P

### アクセス許可の境界

ユーザーまたはロールが持つことができるアクセス許可の上限を設定するための Word プリンシパルにアタッチされる IAM IAM管理ポリシー。詳細については、IAM ドキュメントの[「アクセス許可の境界」](#)を参照してください。

### 個人を特定できる情報 (PII )

直接閲覧した場合、または他の関連データと組み合わせた場合に、個人の身元を合理的に推測するために使用できる情報。PII の例には、名前、住所、連絡先情報などがあります。

## PII

[個人を特定できる情報](#)を参照してください。

### プレイブック

クラウドでのコアオペレーション機能の提供など、移行に関連する作業を取り込む、事前定義された一連のステップ。プレイブックは、スクリプト、自動ランブック、またはお客様のモダナイズされた環境を運用するために必要なプロセスや手順の要約などの形式をとることができます。

## PLC

[「プログラム可能なロジックコントローラー」](#)を参照してください。

## PLM

[「製品ライフサイクル管理」](#)を参照してください。

## ポリシー

アクセス許可の定義 ([アイデンティティベースのポリシー](#)を参照)、アクセス条件の指定 ([リソースベースのポリシー](#)を参照)、またはの組織内のすべてのアカウントに対する最大アクセス許可の定義 AWS Organizations ([サービスコントロールポリシー](#)を参照) が可能なオブジェクト。

## 多言語の永続性

データアクセスパターンやその他の要件に基づいて、マイクロサービスのデータストレージテクノロジーを個別に選択します。マイクロサービスが同じデータストレージテクノロジーを使用している場合、実装上の問題が発生したり、パフォーマンスが低下する可能性があります。マイクロサービスは、要件に最も適合したデータストアを使用すると、より簡単に実装でき、パフォーマンスとスケーラビリティが向上します。詳細については、[マイクロサービスでのデータ永続性の有効化](#)を参照してください。

## ポートフォリオ評価

移行を計画するために、アプリケーションポートフォリオの検出、分析、優先順位付けを行うプロセス。詳細については、「[移行準備状況ガイド](#)」を参照してください。

## 述語

true または を返すクエリ条件。通常は false WHERE 句にあります。

## 述語のプッシュダウン

転送前にクエリ内のデータをフィルタリングするデータベースクエリ最適化手法。これにより、リレーショナルデータベースから取得して処理する必要があるデータの量が減少し、クエリのパフォーマンスが向上します。

## 予防的コントロール

イベントの発生を防ぐように設計されたセキュリティコントロール。このコントロールは、ネットワークへの不正アクセスや好ましくない変更を防ぐ最前線の防御です。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Preventative controls](#)を参照してください。

## プリンシパル

アクションを実行し AWS、リソースにアクセスできるのエンティティ。このエンティティは通常、IAM AWS アカウントロール、またはユーザーのルートユーザーです。詳細については、IAM ドキュメントの「[ロールの用語と概念](#)」の「プリンシパル」を参照してください。

## プライバシーバイデザイン

開発プロセス全体を通じてプライバシーを考慮に入れたシステムエンジニアリングアプローチ。

## プライベートホストゾーン

Amazon Route 53 が 1 つ以上の DNS 内のドメインとそのサブドメインの VPCs クエリに応答する方法に関する情報を保持するコンテナ。詳細については、Route 53 ドキュメントの「[プライベートホストゾーンの使用](#)」を参照してください。

## プロアクティブコントロール

非準拠のリソースのデプロイを防止するように設計された[セキュリティコントロール](#)。これらのコントロールは、プロビジョニング前にリソースをスキャンします。リソースがコントロールに準拠していない場合、プロビジョニングされません。詳細については、AWS Control Tower ドキュメントの「[コントロールリファレンスガイド](#)」および「[セキュリティコントロールの実装](#)」の「[プロアクティブコントロール](#)」を参照してください。 AWS

## 製品ライフサイクル管理 (PLM )

設計、開発、発売、成長と成熟、辞退と削除まで、ライフサイクル全体にわたる製品のデータとプロセスの管理。

## 本番環境

[「環境」](#)を参照してください。

## プログラム可能なロジックコントローラー (PLC )

製造では、マシンをモニタリングし、製造プロセスを自動化する、信頼性が高く適応性の高いコンピュータです。

## プロンプトの連鎖

1 つの [LLM](#) プロンプトの出力を次のプロンプトの入力として使用して、より良いレスポンスを生成します。この手法は、複雑なタスクをサブタスクに分割したり、事前対応を繰り返し調整または拡張したりするために使用されます。これにより、モデルのレスポンスの精度と関連性が向上し、より詳細でパーソナライズされた結果が得られます。

## 仮名化

データセット内の個人識別子をプレースホルダー値に置き換えるプロセス。仮名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。仮名化されたデータは、依然として個人データとみなされます。

## publish/subscribe (pub/sub)

マイクロサービス間の非同期通信を可能にするパターン。スケーラビリティと応答性を向上させます。例えば、マイクロサービスベースの [MES](#) では、マイクロサービスは他のマイクロサー

ビズがサブスクライブできるチャンネルにイベントメッセージを発行できます。システムは、公開サービスを変更せずに新しいマイクロサービスを追加できます。

## Q

### クエリプラン

SQL リレーショナルデータベースシステム内のデータにアクセスするために使用する、手順などの一連のステップ。

### クエリプランのリグレッション

データベースサービスのオプティマイザーが、データベース環境に特定の変更が加えられる前に選択されたプランよりも最適性の低いプランを選択すること。これは、統計、制限事項、環境設定、クエリパラメータのバインディングの変更、およびデータベースエンジンの更新などが原因である可能性があります。

## R

### RACIマトリックス

[「責任者」、「説明責任者」、「相談先」、「通知先」\(RACI\)](#) を参照してください。

### RAG

[「取得拡張生成」](#) を参照してください。

### ランサムウェア

決済が完了するまでコンピュータシステムまたはデータへのアクセスをブロックするように設計された、悪意のあるソフトウェア。

### RASCIマトリックス

[「責任者」、「説明責任者」、「相談先」、「通知先」\(RACI\)](#) を参照してください。

### RCAC

[「行と列のアクセスコントロール」](#) を参照してください。

### リードレプリカ

読み取り専用で使用されるデータベースのコピー。クエリをリードレプリカにルーティングして、プライマリデータベースへの負荷を軽減できます。

## 再設計

[「7R」](#)を参照してください。

### 目標復旧時点 (RPO)

最後のデータリカバリポイントからの最大許容時間です。これにより、最後の回復時点からサービスが中断されるまでの間に許容できるデータ損失の程度が決まります。

### 目標復旧時間 (RTO)

サービス中断から復旧までの最大許容遅延時間。

### リファクタリング

[「7R」](#)を参照してください。

### リージョン

地理的エリア内の AWS リソースのコレクション。各 AWS リージョンは、耐障害性、安定性、耐障害性を提供するために、他のから分離され、独立しています。詳細については、[AWS リージョン「アカウントで使用できるを指定する」](#)を参照してください。

### 回帰

数値を予測する機械学習手法。例えば、「この家はどれくらいの値段で売れるでしょうか?」という問題を解決するために、機械学習モデルは、線形回帰モデルを使用して、この家に関する既知の事実(平方フィートなど)に基づいて家の販売価格を予測できます。

### リホスト

[「7R」](#)を参照してください。

### リリース

デプロイプロセスで、変更を本番環境に昇格させること。

### 再配置

[「7R」](#)を参照してください。

### プラットフォーム変更

[「7R」](#)を参照してください。

### 再購入

[「7R」](#)を参照してください。

## 回復性

中断に耐えたり、中断から回復したりするアプリケーションの機能。で障害耐性を計画するときは、[高可用性](#)と[ディザスタリカバリ](#)が一般的な考慮事項です AWS クラウド。詳細については、[AWS クラウド「レジリエンス」](#)を参照してください。

### リソースベースのポリシー

Amazon S3 バケット、エンドポイント、暗号化キーなどのリソースにアタッチされたポリシー。このタイプのポリシーは、アクセスが許可されているプリンシパル、サポートされているアクション、その他の満たすべき条件を指定します。

### 責任、説明責任、相談、情報提供 (RACI) マトリックス

移行活動とクラウド運用に関わるすべての関係者の役割と責任を定義したマトリックス。マトリックスの名前は、マトリックスで定義されている責任の種類、すなわち責任 (R)、説明責任 (A)、協議 (C)、情報提供 (I) に由来します。サポート (S) タイプはオプションです。サポートを含めると、マトリックスは RASCI マトリックスと呼ばれ、除外すると RACI マトリックスと呼ばれます。

### レスポンスコントロール

有害事象やセキュリティベースラインからの逸脱について、修復を促すように設計されたセキュリティコントロール。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Responsive controls](#)を参照してください。

### 保持

[「7R」](#)を参照してください。

### 廃止

[「7R」](#)を参照してください。

### 取得拡張生成 (RAG )

レスポンスを生成する前に、[LLM](#) がトレーニングデータソースの外部にある信頼できるデータソースを参照する[生成 AI](#) テクノロジー。例えば、RAG モデルは組織のナレッジベースやカスタムデータのセマンティック検索を実行する場合があります。詳細については、[RAG とは](#)」を参照してください。

### ローテーション

攻撃者が認証情報にアクセスすることをより困難にするために、[シークレット](#)を定期的に更新するプロセス。

## 行と列のアクセスコントロール (RCAC )

アクセスルールが定義されている基本的で柔軟な SQL 式の使用。RCACは、行のアクセス許可と列のマスクで構成されます。

### RPO

[「目標復旧時点」](#)を参照してください。

### RTO

[目標復旧時間](#)を参照してください。

### ランブック

特定のタスクを実行するために必要な手動または自動化された一連の手順。これらは通常、エラー率の高い反復操作や手順を合理化するために構築されています。

## S

### SAML 2.0

多くの ID プロバイダー (IdPs) が使用するオープンスタンダード。この機能を使用すると、フェデレーテッドシングルサインオン (SSO) が有効になるため、ユーザーは組織内のすべてのユーザーを AWS API で作成しなくても、AWS Management Console にログインしたり、IAM オペレーションを呼び出したりできます。SAML 2.0 ベースのフェデレーションの詳細については、Word IAMドキュメントの[SAML 2.0 ベースのフェデレーションについて](#)を参照してください。

### SCADA

[「監視コントロールとデータ収集」](#)を参照してください。

### SCP

[「サービスコントロールポリシー」](#)を参照してください。

### シークレット

暗号化された形式で保存する AWS Secrets Managerパスワードやユーザー認証情報などの機密情報または制限付き情報。シークレット値とそのメタデータで構成されます。シークレット値は、バイナリ、単一の文字列、または複数の文字列にすることができます。詳細については、[Secrets Manager ドキュメントの「Secrets Manager シークレットの内容」](#)を参照してください。



## 設計によるセキュリティ

開発プロセス全体を通じてセキュリティを考慮したシステムエンジニアリングアプローチ。

### セキュリティコントロール

脅威アクターによるセキュリティ脆弱性の悪用を防止、検出、軽減するための、技術上または管理上のガードレール。セキュリティコントロールには、[予防的](#)、[検出的](#)、[応答的](#)、[プロアクティブ](#)の4つの主なタイプがあります。

### セキュリティ強化

アタックサーフェスを狭めて攻撃への耐性を高めるプロセス。このプロセスには、不要になったリソースの削除、最小特権を付与するセキュリティのベストプラクティスの実装、設定ファイル内の不要な機能の無効化、といったアクションが含まれています。

### セキュリティ情報とイベント管理 (SIEM) システム

セキュリティ情報管理 (SIM) システムとセキュリティイベント管理 (SEM) システムを組み合わせたツールとサービス。SIEM システムは、サーバー、ネットワーク、デバイス、その他のソースからデータを収集、監視、分析して、脅威やセキュリティ違反を検出し、アラートを生成します。

### セキュリティレスポンスの自動化

セキュリティイベントに自動的に対応または修正するように設計された、事前定義されプログラムされたアクション。これらの自動化は、セキュリティのベストプラクティスの実装に役立つ[検出的](#)または[応答的](#)な AWS セキュリティコントロールとして機能します。自動応答アクションの例には、VPC セキュリティグループの変更、Amazon EC2 インスタンスへのパッチ適用、認証情報のローテーションなどがあります。

### サーバー側の暗号化

送信先にあるデータの、それ AWS のサービスを受け取る による暗号化。

### サービスコントロールポリシー (SCP)

AWS Organizationsの組織内の、すべてのアカウントのアクセス許可を一元的に管理するポリシー。SCPsは、管理者がユーザーまたはロールに委任できるアクションのガードレールを定義するか、制限を設定します。SCPs を許可リストまたは拒否リストとして使用して、許可または禁止されるサービスまたはアクションを指定できます。詳細については、AWS Organizations ドキュメントの[「サービスコントロールポリシー」](#)を参照してください。

## サービスエンドポイント

のエンドポイントのURL AWS のサービス。ターゲットサービスにプログラムで接続するには、エンドポイントを使用します。詳細については、AWS 全般のリファレンスの「[AWS のサービス エンドポイント](#)」を参照してください。

## サービスレベルアグリーメント (SLA )

サービスのアップタイムやパフォーマンスなど、IT チームがお客様に提供すると約束したものを明示した合意書。

## サービスレベルインジケータ (SLI )

エラー率、可用性、スループットなど、サービスのパフォーマンス側面の測定。

## サービスレベルの目標 (SLO )

サービス[レベルのインジケータ](#)によって測定される、サービスの状態を表すターゲットメトリクス。

## 責任共有モデル

クラウドのセキュリティとコンプライアンス AWS について と共有する責任を説明するモデル。AWS はクラウドのセキュリティを担当しますが、ユーザーはクラウドのセキュリティを担当します。詳細については、[責任共有モデル](#)を参照してください。

## SIEM

[セキュリティ情報とイベント管理システム](#)を参照してください。

## 単一障害点 (SPOF )

システムを中断させる可能性のあるアプリケーションの 1 つの重要なコンポーネントの障害。

## SLA

「[サービスレベルアグリーメント](#)」を参照してください。

## SLI

「[サービスレベルインジケータ](#)」を参照してください。

## SLO

「[サービスレベルの目標](#)」を参照してください。

## split-and-seed モデル

モダナイゼーションプロジェクトのスケーリングと加速のためのパターン。新機能と製品リリースが定義されると、コアチームは解放されて新しい製品チームを作成します。これにより、お

お客様の組織の能力とサービスの拡張、デベロッパーの生産性の向上、迅速なイノベーションのサポートに役立ちます。詳細については、[「」の「アプリケーションをモダナイズするための段階的アプローチ AWS クラウド」](#)を参照してください。

## SPOF

[単一障害点](#)を参照してください。

## star スキーマ

トランザクションデータまたは測定データを保存するために1つの大きなファクトテーブルを使用し、データ属性を保存するために1つ以上の小さなディメンションテーブルを使用するデータベースの組織構造。この構造は、[データウェアハウス](#)またはビジネスインテリジェンスの目的で使用するために設計されています。

## strangler fig パターン

レガシーシステムが廃止されるまで、システム機能を段階的に書き換えて置き換えることにより、モノリシックシステムをモダナイズするアプローチ。このパターンは、宿主の樹木から根を成長させ、最終的にその宿主を包み込み、宿主にとって代わるイチジクのつるを例えています。そのパターンは、モノリシックシステムを書き換えるときのリスクを管理する方法として[Martin Fowler により提唱されました](#)。このパターンを適用する方法の例については、[「コンテナと Amazon ASP API Gateway を使用してレガシー Microsoft Word.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズする」](#)を参照してください。

## サブネット

VPC 内の IP アドレスの範囲。サブネットは、1つのアベイラビリティゾーンに存在する必要があります。

## 監視コントロールとデータ収集 (SCADA)

製造では、ハードウェアとソフトウェアを使用して物理アセットと生産オペレーションをモニタリングするシステム。

## 対称暗号化

データの暗号化と復号に同じキーを使用する暗号化のアルゴリズム。

## 合成テスト

ユーザーインタラクションをシミュレートして潜在的な問題を検出したり、パフォーマンスをモニタリングしたりする方法でシステムをテストします。[Amazon CloudWatch Synthetics](#) を使用してこれらのテストを作成できます。

## システムプロンプト

動作を指示するために、コンテキスト、指示、またはガイドラインを [LLM](#) に提供するための手法。システムプロンプトは、コンテキストを設定し、ユーザーとのやり取りのルールを確立するのに役立ちます。

## T

### タグ

AWS リソースを整理するためのメタデータとして機能するキーと値のペア。タグは、リソースの管理、識別、整理、検索、フィルタリングに役立ちます。詳細については、「[AWS リソースのタグ付け](#)」を参照してください。

### ターゲット変数

監督された機械学習でお客様が予測しようとしている値。これは、結果変数のことも指します。例えば、製造設定では、ターゲット変数が製品の欠陥である可能性があります。

### タスクリスト

ランブックの進行状況を追跡するために使用されるツール。タスクリストには、ランブックの概要と完了する必要がある一般的なタスクのリストが含まれています。各一般的なタスクには、推定所要時間、所有者、進捗状況が含まれています。

### テスト環境

[「環境」](#)を参照してください。

### トレーニング

お客様の機械学習モデルに学習するデータを提供すること。トレーニングデータには正しい答えが含まれている必要があります。学習アルゴリズムは入力データ属性をターゲット (お客様が予測したい答え) にマッピングするトレーニングデータのパターンを検出します。これらのパターンをキャプチャする機械学習モデルを出力します。そして、お客様が機械学習モデルを使用して、ターゲットがわからない新しいデータでターゲットを予測できます。

### トランジットゲートウェイ

VPCs ネットワークとオンプレミスネットワークを相互接続するために使用できるネットワークトランジットハブ。詳細については、AWS Transit Gateway ドキュメントの「[トランジットゲートウェイとは](#)」を参照してください。

## トランクベースのワークフロー

デベロッパーが機能ブランチで機能をローカルにビルドしてテストし、その変更をメインブランチにマージするアプローチ。メインブランチはその後、開発環境、本番前環境、本番環境に合わせて順次構築されます。

## 信頼されたアクセス

ユーザーに代わって AWS Organizations およびそのアカウントで組織内のタスクを実行するために指定したサービスにアクセス許可を付与します。信頼されたサービスは、サービスにリンクされたロールを必要なときに各アカウントに作成し、ユーザーに代わって管理タスクを実行します。詳細については、ドキュメントの「[を他の AWS のサービス AWS Organizations で使用する AWS Organizations](#)」を参照してください。

## チューニング

機械学習モデルの精度を向上させるために、お客様のトレーニングプロセスの側面を変更する。例えば、お客様が機械学習モデルをトレーニングするには、ラベル付けセットを生成し、ラベルを追加します。これらのステップを、異なる設定で複数回繰り返して、モデルを最適化します。

## ツーピザチーム

2つのピザを食べることができる small DevOps チーム。ツーピザチームの規模では、ソフトウェア開発におけるコラボレーションに最適な機会が確保されます。

# U

## 不確実性

予測機械学習モデルの信頼性を損なう可能性がある、不正確、不完全、または未知の情報を指す概念。不確実性には、次の2つのタイプがあります。認識論的不確実性は、限られた、不完全なデータによって引き起こされ、弁論的不確実性は、データに固有のノイズとランダム性によって引き起こされます。詳細については、[深層学習システムにおける不確実性の定量化](#) ガイドを参照してください。

## 未分化なタスク

ヘビーリフティングとも呼ばれ、アプリケーションの作成と運用には必要だが、エンドユーザーに直接的な価値をもたらさなかったり、競争上の優位性をもたらしたりしない作業です。未分化なタスクの例としては、調達、メンテナンス、キャパシティプランニングなどがあります。

## 上位環境

[???](#)「環境」を参照してください。

## V

### バキューミング

ストレージを再利用してパフォーマンスを向上させるために、増分更新後にクリーンアップを行うデータベースのメンテナンス操作。

### バージョンコントロール

リポジトリ内のソースコードへの変更など、変更を追跡するプロセスとツール。

### VPCピアリング

プライベート IP アドレスを使用してトラフィックをルーティングできる 2 つの VPCs 間の接続。詳細については、Amazon [VPC ドキュメントの「Word ピアリングとは」](#)を参照してください。VPC

### 脆弱性

システムのセキュリティを脅かすソフトウェアまたはハードウェアの欠陥。

## W

### ウォームキャッシュ

頻繁にアクセスされる最新の関連データを含むバッファキャッシュ。データベースインスタンスはバッファキャッシュから、メインメモリまたはディスクからよりも短い時間で読み取りを行うことができます。

### ウォームデータ

アクセス頻度の低いデータ。この種類のデータをクエリする場合、通常は適度に遅いクエリでも問題ありません。

### ウィンドウ関数

現在のレコードに関連する行のグループに対して計算を実行する SQL 関数。ウィンドウ関数は、移動平均の計算や、現在の行の相対位置に基づく行の値へのアクセスなどのタスクの処理に役立ちます。

## ワークロード

ビジネス価値をもたらすリソースとコード (顧客向けアプリケーションやバックエンドプロセスなど) の総称。

## ワークストリーム

特定のタスクセットを担当する移行プロジェクト内の機能グループ。各ワークストリームは独立していますが、プロジェクト内の他のワークストリームをサポートしています。たとえば、ポートフォリオワークストリームは、アプリケーションの優先順位付け、ウェーブ計画、および移行メタデータの収集を担当します。ポートフォリオワークストリームは、これらの設備を移行ワークストリームで実現し、サーバーとアプリケーションを移行します。

## WORM

[「書き込み 1 回」](#)、[「読み取り数」](#) を参照してください。

## WQF

[AWS 「Word Workload Qualification Framework」](#) を参照してください。

## Write Once, Read Many (WORM )

データを 1 回書き込み、データの削除や変更を防ぐストレージモデル。許可されたユーザーは、必要な回数だけデータを読み取ることができますが、変更することはできません。このデータストレージインフラストラクチャは [イミュータブル](#) と見なされます。

## Z

### ゼロデイエクスプロイト

[ゼロデイ脆弱性](#) を利用する攻撃、通常はマルウェア。

### ゼロデイ脆弱性

実稼働システムにおける未解決の欠陥または脆弱性。脅威アクターは、このような脆弱性を利用してシステムを攻撃する可能性があります。開発者は、よく攻撃の結果で脆弱性に気付きます。

### ゼロショットプロンプト

タスクを実行するための指示を [LLM](#) に提供しますが、タスクのガイドに役立つ例 (ショット) はありません。LLM は、事前にトレーニングされた知識を使用してタスクを処理する必要があります。ゼロショットプロンプトの有効性は、タスクの複雑さとプロンプトの品質によって異なります。[「数ショットプロンプト」](#) も参照してください。

## ゾンビアプリケーション

CPU とメモリの平均使用量が 5% 未満のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するのが一般的です。



翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。